モントリオールへの道

前々から何度となく言われてきたことだが、日本は地理的な条件から、他国と試合をする機会がきわめて少ない。

毎年、いくつかの国際試合の計画がありながらほとんどがだめになってしまう。

この悪循環が、日本とヨーロッパの間に、技術面ばかりでなく、実際目に見えない差というものを生みだしているような気がする。

目に見えない差というのが実は大試合になると、勝負の明暗を分けるのである。

つまりそれは、豊富な経験からくる冷静な判断力とか、最後まで絶対にあきらめない執念とかになると思う。

この長年背負っているハンディキャップをいちどに克服することはできない。

しかし、少しずつでも解決するには、数少ない国際試合を生かすしかないのではないか。

その意味で、真近にせまったプレオリンピック（モントリオール国際）は、日本にとって他国の何倍もの価値があるに違いない。

〝アジア〟という温室にも近い環境を抜け出して、〝ヨーロッパ〟という厳しい環境の国と試合をすることは、貴重な体験であると同時に、来年のオリンピックにも大いに役立つことだろう。

参加する以上は、日本の良い点をアピールして、活気あふれる試合をしてきてほしい。

オリンピックまで一年を切った今でも、国内のハンドボール界は決して急がしく動き始めたわけではない。

アジア諸国の力が未だしとあって、日本勢に緊迫感があまりないとも伝えられる。

だが、アジア諸国がオリンピックという場を借りて、自国のハンドボール界を優位に導こうとしている意欲は、日本以上のものがあるのではないか。

日本も、今度のプレオリンピックが刺激となって、再び活発に動き始めてほしいのである。

それには、選手個々が自覚を持って、中身の濃い遠征にしなければならない。

モントリオールへの道はあくまでも厳しい。

それに打ち勝つような、技術と精神力を養うことは、ナショナルプレイヤーにとって不可欠だ。

日本にとってプレオリンピック参加の意義は大きい。それ以上に期待と不安の大きいのも〝事実〟である。

（青木敬子）

市民ハンドボールの芽

「ハンドボールをいつまでも楽しみながら、自己の健康管理のために」をモットーに、長い間くすぶりつづけていた高校OBを中心に、岩手県にもやっと〈盛岡市社会人リーグ〉なるものが誕生しました。

実施のきっかけは、社会体育振興を旗印に、岩手国体後の諸施設の活用を柱に「岩手のゴールデンプラン」が推進されるなかでサッカー、バスケットボールなどいくつかの社会人リーグが実施されてきた社会的情勢に刺激されたことでしょう。

これらの競技に、ハンドボールOBが参加していたケースも多かったのですが「どうせなら経験のあるハンドボールを…」という声が生まれてきたのは、しごく当然、と云えました。県協会が音頭をとり、盛岡市の協会担当者の熱意が相まってかつて県大会参加の実績をもつチーム並びに高校OB会関係者へ働きかけを行ない、再三、打合せを繰り返しました。

さまざまな反応の中で、集った関係者の一致した意見は「とにかくやること」でした。

多少問題になったことと云えば、各チームのメンバー確保と〝現役〟選手との色分けです。

しかし、これもOB会のルートや各企業内の連絡網を通じてどうにかOBの集結に成功し、当初の予想を上まわる8チームの加盟が確認され、開幕にこぎつけました

久々のユニホーム姿に、ちょっと照れながら、かつてのライバル同士が、お互いの元気を喜びあい和やかな雰囲気でゲームは進み、老骨にムチ打つ往年の名選手のプレーに、拍手が沸く風景は、この地に、新しいハンドボールの芽生えを感じさせています。

こうした事業のカギを握ると云われる会場については、関係各高校の協力を得ており、レフェリーも現役選手や大学部員が買って出てくれています。

課題もあります。「長期日程ではなく、一時期集中ならば参加したい」という声。若いOBで固めたチームのレベルが高すぎ「彼が居ると…」と〝除名〟がささやかれるなど選手資格への意見。

いずれ、関係者が集って解決されることでしょうが、なによりも参加チーム選手の意欲が、前途への大きな励みになっています。

そして「とにかくやること」から「やってよかった」に替った関係者の胸中が、最初の成果です。

（太田利彦・岩手協会理事長）

「ハンドボール」
50年9月号（第134号）目次

【表紙写真】全日本高校選手権男子決勝・清水(攻撃)×岩国工雨中の激戦。(8月7日・山梨塩山中)

撮影・山田　真市

ベテラン、新鋭揃え"腕試し" GKに柴田(法大)

プレ・オリンピック代表決まる

日本協会は、7月31日の全国代議員会（東京）で、モントリオール市（カナダ）で開かれるいわゆるプレ・オリンピック——モントリオール国際ハンドボール競技会に出場の日本代表チーム（男子）の顔ぶれを決定した。

代表チームは、監督、コーチ各1、選手14名のフルエントリーで、執行部案を無修正で承認したもの。団長は本誌〆切りまでに未発表。大会は、9月25日から10月3日まで6ケ国が参加して行われるが、代表チームは、9月7日東京体育館で壮行試合のあと、カナダ西部を親善試合（全3戦）で転戦するため17日午後6時30分、羽田空港発の日本航空機で遠征する。（帰国は10月4日午後・羽田空港着の予定）

今秋以降に控えるオリンピックアジア予選（詳細未定）、10ケ月後に迫ったモントリオール・オリンピックを意識した編成だ。

選考の基盤となったのは、「昭和49年度ナショナル」（GK3、FP18）～本誌125号参照～で、昨秋以後数次の強化合宿、今シーズン上半期の国内試合におけるプレーから、竹野（監督）、東（コーチ）のコーチングスタッフがリストアップ、渡辺技術部長から3部合同会議、月例常務理事会を経て、全国代議員会に提案されたもの。

モントリオール国際大会（プレオリンピック）代表団

▽団長　（未発表）
▽監督　竹野奉昭
▽コーチ　東　嘉伸
▽選手
GK　本田　洋（大阪イーグルス）
　　柴田正章（法政大）
FP　木野　実（湧永薬品）
　　飯田信行（大崎電気）
　　藤中憲二（大同製鋼）
　　中井武三（大同製鋼）
　　松原光三（大同製鋼）
　　佐藤要二（本田技研）
　　花輪　博（大同製鋼）
　　穂積豊彦（湧永薬品）
　　菊池　悟（稲門ク）
　　村田幸男（法政大）
　　柳川　実（大同製鋼）
　　蒲生晴明（中央大）

本舞台意識した編成

プレ・オリンピック代表の決定は、昨秋の東ドイツ戦以来、沈黙をつづけていた男子ナショナルチームの"復活"を示すものである。

選出された14名は、一口にいって、ベテランと新鋭の混合部隊。

国際的評価高い藤中、佐藤

FP陣は、木野(湧永薬品)、飯田(大崎電気)が健在ぶりを示しているのが目立つ。

木野は、ますますプレーが円熟若いアタッカーのコントロールタワーとして、いぜん欠かせぬ存在だ。

6月に痛めた右足靱帯も回復、巧技が期待される。

飯田は、ひところの豪放味がさすがに欠けてきたが、ポストプレーなどに新境地を用いており、187cmの体軀を活かした攻撃力は捨て難い。

木野とともにチームの牽引車として責任も重い。

中堅勢というより、いまやチームの大黒柱といえる藤中（大同製鋼）、佐藤(本田技研）の選出は当然のところ。

昨春の世界選手権（東ドイツ）では、二人で実に70点をたたき出した。国際的にも高い評価をうけ来日する外国チームはもちろん、ヨーロッパの専門誌も二人の動きに注目をはらっている。

中井（大同製鋼）の渋味のあるプレーも、すっかり全日本に"定着"している。

守りの巧さ、攻から守、守から攻へのつなぎ役として、中井の見せる着実なプレーは、史上でも屈指の実力である。

日本戦法・速攻の主役、松原（大同製鋼）が、ついに海外遠征の切符をつかんだのも話題。

柳川（大同製鋼）とともに、そのスピード豊かな攻撃は、力で押しまくってくる外国勢を相手に、目を見はらせるだろう。

速攻、サイドをこなす花輪（大同製鋼）も、国際選手としての風格が身についてきた。

学生界から村田と蒲生

このほか社会人からは菊池（稲門ク、東京12チャンネルTV）と穂積（湧永薬品）。

菊池は、今春、早大卒業後、クラブ界で相変らずダイナミックなプレーをつづけている。平生が地味な舞台ばかりだけに、たいへんな意気ごみである。

穂積は、大阪経大から湧永入りして2年目、日本実業団リーグでもっとも成長した選手という折り紙をつけられた。力、技どちらでもいける。初の海外遠征だが、思い切ったプレーを望んでおこう。

村田(法政4年)、蒲生（中央3年）の学生コンビ。

昨春の世界選手権、今春の世界学生、さらに今夏の韓国遠征と二人の呼吸はピッタリだ。

研究熱心なところも定評のあるところ。

村田の「意外性豊かなプレー」は、若い愛好者層に圧倒的な支持をうけており、今後はいかに本場勢を相手に、その技を磨くかだ。

蒲生にも同じことが云える。持ち前のシュート力を、そろそろ各国にマークされはじめていい頃だ。

若さにまかせた思い切りのよいプレーは、ホームチームよりも、ナショナルで活きている。

ベテラン勢に活かされるのではなく、エースアタッカーとしての積極性を、この大会でつかんで欲しい。

健在示すベテラン本田

GKは本田（大阪イーグルス、堺工商教員）と柴田(法政4年)。本田は、故障なくいけば、今大会最終戦で、木野につぎ、史上2人目の公式国際試合出場50回を飾ることになる（GKでは初）。

いかに、その技がおとろえず、チームメートの信頼を得ているかが判ろう。

柴田の登場は新鮮である。学生界ナンバーワン、国際レベルの選手と云われて久しい。

海外遠征は、今夏の日韓学生だけだが、人一倍の勝負強さで不安はない。

今大会で、ヨーロッパ勢に通じると判れば、斉藤(日体4年)、柳川清(大同製鋼)、福井(湧永薬品)ら本田の後継者を目指す日本のGK陣は厚味ができる。

「50年度全日本」改めて発表か

ところで、日本協会は「50年度ナショナル」の発表より「プレオリンピック代表」の決定を先行させる変則的なコースを採った。

これについて荒川理事長、渡辺技術部長は「49年度ナショナル」をモントリオールへの即戦力として考えており、そのなかから、今回の代表もピックアップした、と説明している。

これは「49年度ナショナル」が自動的に「50年度ナショナル」となったことを、公けにしたもので全国代議員会では、二、三の意見と質問が出されたが、結局、「承認」の方向に傾いた。

しかし、議決までには至らず、竹野奉昭監督も、本誌の質問に対して「オリンピック予選前には、メンバーを改めて選こうとする」と語っており、例え「49年度ナショナル」が「50年度ナショナル」になったとしても、プレオリンピック後の比較的早い時期に「50年度ナショナル」が、新たに加える選手を含めて〝再発表〟されることになりそうだ。

注目のアジア予選は、本誌6頁所報のような動きはあったものの、いぜん白紙に近い状態であり、年内に開催される可能性は少くない（注・予選期日は今秋11月3日から来春3月7日まで）

また、日本での開催もほとんど望みうすであり、コーチングスタッフは、遠征—転戦のたくましさを備えた選手をリストアップ、強化していく方針のようだ。

なお、日本協会の緊縮財政で今年度は「ヤング全日本」の活動が休止されることが確定的で、現有メンバー（GK2、FP14=本誌128号参照）の取り扱いについては改めて協議される模様。

一方、女子はすでに「50年度ナショナル」（GK4、FP15=本誌前号参照）が発表され、3ケ月後にせまった世界女子選手権への強化も軌道にのり、9月1日から茨城県岩井市（日本ビクター）と栃木県大平町（日立栃木）で約2週間の合宿を行うなど代表選考は大詰めを迎えようとしている。

9月7日 東京体育館で壮行試合

日本協会は、プレ・オリンピックに出場する日本代表チームの壮行試合を9月7日、東京体育館で開く。

ミュンヘンオリンピック(昭47)の代表を中心とした「日本選抜」が相手をつとめる。

また、壮行試合に先立って全日本女子が二手に分かれて公開試合を行う。入場料は一般学生500円、高校・中学生300円ですべて当日売り。日程は次のとおり

・公開試合　13時30分　全日本女子A 対 全日本女子B
・プレオリンピック代表壮行式　14時35分
・壮行試合　15時
プレオリンピック代表 対「日本選抜」

近森、野田らで「日本選抜」

日本協会は、プレオリンピック代表チームの壮行試合（9月7日=別掲）に出場する「日本選抜」のメンバーを次のように決めた。

元全日本監督の村田弘氏（大阪協会副理事長）が久々にさい配をふるうほか、ミュンヘンオリンピック代表(☆印)を中心に、ナショナルチームの残留メンバーが主体となっている。

【日本選抜】▽監督　村田弘▽選手・GK斉藤将(日体大)、柳川兄(大同製鋼)、・FP☆近森（三陽商会)、☆野田（大同製鋼)、☆早川（大阪イーグルス)、☆佐々木（三景)、☆氷海（千葉教員)、☆新実（本田技研鈴鹿)、津川(湧永薬品)、平野（海上自衛隊下総)、斉藤幸（日体大)

女子公開試合の陣容も

日本協会は、プレオリンピック代表の壮行試合前に行われる全日本女子公開試合のメンバーを次のように決めた。

いずれも、50年度ナショナルプレイヤーで、今冬12月の第6回女子世界選手権候補選手。

【全日本女子・A】			【全日本女子・B】	
和　田	（立石電機）	GK	鈴　木	（日本ビクター）
渡　辺	（日本ビクター）	GK	久　保	（田村紡）
古佐原	（東京重機）	FP	菊　地	（東京重機）
額　賀	（日本ビクター）	FP	有　賀	（東北ムネカタ）
松　下	（田村紡）	FP	加　藤	（日本ビクター）
大　場	（大崎電気）	FP	穂　積	（日本ビクター）
島　田	（立石電機）	FP	河　田	（田村紡）
蔵　田	（立石電機）	FP	紀　野	（立石電機）
山　下	（立石電機）	FP	小　森	（ブラザー工業）
		FP	桜　庭	（日立栃木）
井　薫		コーチ	池田鉄哉	
鈴木義男		コーチ	藤原　侑	

プレ・オリンピック（カナダカップ）展望
ソ連追う日本、ポーランド

モントリオール国際ハンドボール競技会（カナダ・カップトーナメント＝男子のみ）が、9月26日から10月2日まで、オリンピックを10カ月後に控えたモントリオール市を主会場にして開かれる。
出場するのは日本など6カ国、総当り戦で優勝を争う。大会の話題、各国の実力などを探ってみた。

この大会はプレ・オリンピックという〃通り名〃をもつ。
本番（来年7月23日～7月31日）を前にして、大会運営の予行や、PRなどを目的に開かれる競技会で、東京、メキシコなどの時は、一定期間に各競技が集まり〃国際スポーツ週間〃などと銘打ち行われたが、今回は6月20日開幕のバレーボール女子から、11月末のレスリングまで、さみだれ式の日程で18競技が予定されている。
ハンドボールのプレ・オリンピックは史上初めてのこと。ミュンヘン前も、ほとんどの競技が行われたのだが、ハンドボールは「今さら予行など…」という西ドイツ協会の〃本家のプライド〃があって組まれなかった。

ユニークな顔ぶれ揃う

モントリオールの場合は、カナダにおけるハンドボールの普及が未だしとあって、関係者もたいへんな意気ごみで、IHF（国際ハンドボール連盟）も首脳陣を乗りこませ、指揮をとるようだ。
参加国の決定は、組織委員会とIHFによって、昨年、12カ国の候補国があがり、結局、いろいろなタイプのハンドボールを集めるという意味から、地元カナダのほかは、ソ連（世界5位）、ポーランド（同4位）の東欧勢、北欧の伝統国デンマーク（同8位）、アジアで独自の地歩を固める日本（同12位）、それに隣国のアメリカと、ユニークな顔ぶれが出揃うことになった。
当初は、チェコ（世界6位）の参加が予想されたが辞退、代ってポーランドが出場する。

競技は3都市で実施

今回の会場は、モントリオール市のほか、シャーブルック市、ケベック市の両市も会場を提供している。
これは、本番でも、予選ラウンドで両市が、使われるものとみてよく、輸送などのリハーサルになる。
シャーブルック市はモントリオール市から128k（約1時間20分）で、会場は六千人収容のスポーツパレス、ケベック市は234k（約2時間30分）はなれ、三千五百人収容のレバル大学体育館が会場にあてられる。
いずれも、本番時と同じようなフロア（タラフレックス）が敷かれているそうだ。
モントリオール市の会場は、本番ではプロアイスホッケーの本拠地であるモントリオール・フォーラム（一万六千四百人収容）が使われるが、今回は三千のシートをもつモントリオール大学体育館と伝えられる。

金メダル目指すソ連

競技面でも話題が多い。特に、来年の本大会で有力な優勝候補とみられているソ連の登場は興味深い。
ルーマニア、東ドイツ、ユーゴの世界3強が参加意思を示さず、いささか格落ちの国際大会になるのでは、とも心配されたが、ソ連のエントリーでぐっと引きしまった感じ。
例年より早く幕をあけたヨーロッパの新シーズンで、ソ連はそのフタあけのユーゴ国際に優勝、カルパティア（ルーマニア）カップでも3位と好調な滑り出しである。
エース・マキシモフ（1m86、96k）、ラグテイン（1m84、85k）、GKイチェンコ（1m91、89k）らはいぜん健在だが、そのほかのメンバーはかなり入れ替っているといわれキドヤエフ、ツチエルニシエフ、フエデュキンといった新しいアタッカーが力をつけてきた。
ソ連の照準は、はっきりとオリンピックの金メダルに据えられているようで、どのような試合ぶりを見せるか興味深い。

意地を見せるかデンマーク

デンマークも注目される。すでに発表されているモントリオールオリンピックのヨーロッパ予選の組み分けをみると、東欧勢以外で本舞台を踏めるのは、デンマークだけになさそうだ。
伝統の北欧・西欧の意地を一身に背負うとみられるこの国の試合ぶりは、今大会でも焦点の一つといえよう。
A・D・ニールセン（1m91、86k）がすっかり安定し、フランドセン（1m84、83k）、J・ラルセン（1m96、92k）らで組む攻撃陣は技に力をプラスして、いっそう多彩との評判である。
このほか、ルント（1m93、94k）、ムンカゲル（1m83、76k）らの新鋭も、ようやく実力を発揮しだしたようだ。
チェコの代役・ポーランドも面

プレオリンピック代表の横顔

◇監督　竹野奉昭　日本協会技術委員、大崎電気総監督、日体大出39才、昭36第4回世界、昭39第5回世界、昭45第7回世界選手権各代表、ミュンヘンオリンピックJOC派遣コーチ（FP登録）、
◇コーチ　東　嘉伸　大阪協会理事、大阪三国ケ丘高教諭、日体大出、37才、昭36第4回世界選手権代表
◇GK・本田　洋　大阪イーグルス（大阪堺工高教諭）、日体大出、28才、179cm、76k、ミュンヘンオリンピック代表、昭45第7回世界、昭49第8回世界選手権各代表、公式国際試合出場45試合
◇GK・柴田正章　法政大4年、浜松南高出、22才、186cm、73k、昭50韓国遠征（全日本学生）
◇FP・蒲生晴明　中央大3年、中大附高出、21才、192cm、88kg、昭49第8回世界、昭50第6回世界学生選手権各代表、公式国際試合出場15試合（通算21得点）
◇FP・飯田信行　大崎電気、同志社大出、29才、188cm、79kg、ミュンヘンオリンピック代表、昭42第6回世界、昭45第7回世界選手権各代表、公式国際試合出場41試合（通算74得点）。旧名・誠行。
◇FP・菊池　悟　稲門クラブ（東京12チャンネルTV）、早稲田大出、23才、186cm、85kg、昭49第8回世界、昭50第6回世界学生選手権各代表、公式国際試合出場16試合（通算19得点）
◇FP・木野　実　湧永薬品、立

白い存在。

全日本・竹野幸昭監督は「手の内がある程度判っているチェコより、ポーランドの出場のほうが日本にとってはありがたい。190cm台ばかりではなく、180cm台、170cm台の選手が活躍しており去年の世界選手権で、ベスト4入りを果した上昇機運は、見逃せない」といっている。

切り札・クレムペルは23才の若さ、1m92、87K。ユーゴ国際では3試合で25ゴールをマークして得点王になっている。スーパースターを集めた昨秋のワールドオールスターズ（本誌127号参照）の一員だ。

1m72、71Kのテクニシャン・ディボルも、いぜん元気。このほかグミイレク（1m77、77K）、カルジンスキー（1m90、90K）、クタ（1m89、86K）、GKスジムサク（1m93、97K）ら世界選手権組が主力。スジムサクはスーパースターの一人。

アメリカ、若手の成長かける

アメリカについては、このところ、あまり情報が伝わってこない。筆者の手元にあったメンバー（＝次頁）も、昨年2月のフランス戦のもので、はたして、この顔ぶれが中心かどうかは不明である。

ネイラー（1m78、75K）、スパークス（1m91、84K）、ベーカー（1m95、93K）ら攻守の中心となっている選手はいずれも30才前後で峠をすぎており、ブヘエング（1m93、84K、22才）に代表される若い選手が、どのように育っているかがポイントだ。

ネイラーが野球、ベーカーがバスケットボールといったように、これまでは、他競技からの転向者が多かったものだが、数年前から軍隊や大学に蒔かれたハンドボールの種の実りが、そろそろ出てもいい。

地元カナダは、ホスト国とあって、積極的な選手強化対策をこうじており、ヨーロッパ遠征もいくどか試みられている。

カナダ全土で、もっともハンドボールが盛んなのは、ケベック地域と云われ、ナショナルチームもこの地域の選手が多い。

公式な国際競技会には、アメリカ大陸予選で、アメリカに立ちはだかれることもあって、まだ一度も、姿を現わしたことはないだけに、今大会でどのようなプレーをみせるか、地元関係者のみならず各国の関心が高い。

日本、強気な乗りこみ

さて、日本はどう戦うだろうか

参加各国との過去の対戦成績をのぞいてみるとソ連とは4戦4敗、アメリカとは3戦3勝と得手、不得手がはっきりしており、ポーランド、デンマーク、カナダとは初めての顔合わせ。

竹野監督は「前半3戦に全力を注ぎ、あわよくば優勝を」ときわめて強気である。

特に緒戦の相手が、去年の世界選手権で18―25と善戦したソ連なのはいい。

この時は、前半7―13と開かれながら、後半は11―12と互角にわたりあい、自信を深めた。

竹野監督が〃優勝〃を口にするのは、なんとか、東欧の壁を突破しようとする斗志にほかならない

日本が、悲願のベストエイト入りを、いつも掛け声ばかりに終らせてしまっているのは、東欧勢の驚くべき成長に遅れをとっているからだ。

不落とさえいわれた西ドイツやスウェーデンさえも、ベストエイトからの転落を余儀なくされている現状では、打倒東欧以外に、上位躍進の道はない。

日本にとって、このプレオリンピックは、またとない顔ぶれといえよう。

デンマーク戦も軽視できない。来年の本番で、デンマークと予選段階で組み合わされる可能性もあるからだ。

「経験を積ませる」といった段階から、一歩進めて上位進出―優勝を目指す日本の試合ぶりは、掛

○………日　　程………○

▽第1日（9月26日・ケベック市レバル大学）
19.00　アメリカ――ポーランド
20.30　日　本――ソ　連

▽第2日（27日・シャーブルック市スポーツパレス）
16.00　（女子）アメリカ―カナダ
17.15　ソ　連――アメリカ
18.45　カナダ――デンマーク
（注・日本は休み）

▽第3日（28日・モントリオール市モントリオール大学）
12.15　（女子）アメリカ―カナダ
14.00　日　本――ポーランド
15.30　デンマーク――アメリカ
17.00　ソ　連――カナダ

▽第4日（29日・レバル大学）
19.00　日　本――デンマーク
20.30　ポーランド――カナダ

▽第5日（30日・シャーブルックスポーツパレス）
19.00　ポーランド――ソ　連
20.30　日　本――カナダ

▽第6日（10月1日・モントリオール大学）
19.30　デンマーク――ポーランド
21.00　日　本――アメリカ

▽第7日（10月2日・モントリオール大学）
18.00　アメリカ――カナダ
19.30　ソ　連――デンマーク

・試合時間は現地時間・第7日は日本の試合なし

教大出、29才、181cm、76kg、昭42第6回世界、昭45第7回世界、昭49第8回世界選手権各代表、公式国際試合出場54試合（通算186得点）

◇FP・中井武三　大同製鋼、同志社大出、26才、180cm、76kg、ミュンヘンオリンピック代表、昭45第7回、昭49第8回世界選手権各代表、公式国際試合出場32試合（通算64得点）

◇FP・松原光三　大同製鋼、日体大出、25才、180cm、72kg、公式国際試合出場1試合（3得点）

◇FP・穂積豊彦　湧永薬品、大阪経大出、23才、180cm、78kg、公式国際試合出場1試合（1得点）

◇FP・佐藤要二　本田技研鈴鹿中央大出、25才、179cm、78kg、昭49第8回世界選手権代表、公式国際試合出場16試合（通算68得点）

◇FP・藤中憲二　大同製鋼、日体大出、27才、179cm、75K、昭45第7回世界、昭49第8回世界選手権代表、公式国際試合出場34試合（通算84得点）

◇FP・村田幸男　法政大4年、明星高出、21才、176cm、68kg、昭49第8回世界、昭50第6回世界学生選手権各代表、公式国際試合出場13試合（通算5得点）

◇FP・花輪　博　大同製鋼、中央大出、25才、177cm、73kg、昭49第8回世界選手権代表、公式国際試合出場13試合（通算7得点）

◇FP・柳川　実　大同製鋼、熊本一工出、21才、175cm、71kg、昭49第8回世界選手権代表、公式国際試合出場10試合（通算15得点）

け値なしに、この大会のみどころの一つにあげていいと思う。

優勝国に〝カナダカップ〟

豪華な〝カナダカップ〟をかけた優勝の行方を占うとなるとやはり、優勝の一番手には、ソ連をあげざるを得ないだろう。

つづいて日本、ポーランド、デンマークの2位争い、そしてアメリカとカナダがエキサイトした展開で1勝を目指すとみたい。

ソ連、ポーランドが、ベストメンバーを送りこんでくるか、どうかで、流れが変わることもあろうが、各国ともオリンピック予選を控えて、少しでも、せりあいの経験が欲しい時だけに新しいスポーツ・ハンドボールの真ずいを見ようと待ちかまえているカナダのファンに、充分、見応えのある試合を〝提供〟できよう。

なお、組織委は大会第2、3日に女子のオープン戦（アメリカ―カナダ）を組んでいるが、公式国際競技会で、男女カードが同時に行われるのは珍しく、これもプレオリンピックならではのことである。

（杉山　茂）

予想される各国の陣容

〔ポーランド〕GK スジムサク、ロスミアレク、ヴォイサク、FP・クレムペル、グミイレク、カルジンスキー、ディボルメルセル、シエスラ、ブルゾゾウスキー、ククタ、ラコミイ、ゴーズト、スコルウスキー

〔ソ連〕GK・イチエンコ、エシエルギン、FP・マキシモフ、ラグティン、ギドヤエフ、チエルニイスチエフ、フエデュキン、コロトフ、レザノフ、ドラチェフ、

〔デンマーク〕GK・ラウリッツゼンヨルゲンセン、ハンセン、FP・ルント、エイラートセン、J・フランドセン、クリステンセン、ムンカゲール、A・D・ニールセンラルセン

〔アメリカ〕GK・リブニヤク、オソリオ、エデス、FP・ネイラースパークス、モーゼ、ハルデイマン、ベーカー、カバナフ、ウインクラー、ブヘニング、マシューズウレム、アブラハムソン

〔カナダ〕GK・タフエブル、デュフォルト、FP・ヴィエンス、ランバート、ブルネット、フェルダイス、コレス、ヨンソン、デゾルモウ、ジョルジェオルギック。

オリンピック予選開催地

イスラエルが名乗り

正式決定までなお曲折か

宙に浮くとみられていたモントリオール・オリンピック男子アジア予選の開催地に、イスラエルが立候補した――IHF（国際ハンドボール連盟）から日本協会あてに届けられた7月30日付文書で明きらかになったものだが、IHFは極めて慎重にこの問題を受けとめ、日程編成などに取りかかることなく、再びエントリー5ケ国（日本、韓国、イスラエル、クウェート、台湾）に対し、意見の提出を求めている。

これは、イスラエル開催の場合クウェートの対戦拒否などが予想され、IHFの「すべての国にとって受けいれられる解決策」にそぐわぬものとなるためで、なおいくつかの曲折はさけられそうにない。

日本協会は、8月23日の月例常務理事会で新しい見解をまとめる。

◇

6月30日の〆切りまでに立候補する国があるとすればイスラエルか台湾というのが、消息通のみかただったが、やはりイスラエルが名乗りをあげていた。

本来なら、これですんなり大会日程決定へこぎつけられるわけだが、IHFは激動のアジア事情を察して、改めて、各国に意見を聴くという異例とも云える姿勢を示してきた。

日本は、開催地が何処になっても遠征することを報告しており、IHFの〝心配〟はクウェートにありそうだ。

はたしてクウェートが、再回答でどのような反応を示すかが大きなポイントとなろう。

しかし、仮にイスラエルに本決まりしたとしても、韓国は遠征費用の点で参加を見合すかもしれぬという情報も一部にあり、新たな波紋が投げかけられそうだ。

IHFは、日本が提案したデヴィスカップ（テニス）法式についても検討したとしているが、今回はあくまで「5ケ国一堂予選」誘致を優先して、コトに当たっているようである。

カナダ西部も転戦 全日本男子

日本協会は、プレオリンピックに先立って、全日本男子をカナダ協会の招きによりカナダ西部で転戦させ、3試合を行うことになった。

アルベルタ（エドモントン、カルガリイ）は、カナダハンドボール界の有力地域で、一九六八年から始められているカナダ国内選手権で、三たび、この地域のチームが覇権を握っている。

▽9月18日　ヴァンクーバー着▽19日　対ブリティシュ・コロンビア選抜（ヴァンクーバー）▽21日対アルベルタ（エドモントン）▽23日　対アルベルタ（同）▽24日モントリオールへ移動。

「組織協力金」(前回決定) を手なおし

緊急招集の全国代議員会

「役員協力金」の復活も正式決定

日本協会は7月31日午前10時、東京渋谷の岸記念体育会館に全国代議員会を緊急招集（定数52名、出席8名、委任状26名＝成立）、主として、危機にさらされた日本協会財政への突破口を求めて、4時間近くの協議を行った。

その結果、2月の会議にかけられた総額約三千三百万円から、約一千万円を削りとった執行部提出の補正予算案を承認し、それに見合う収入達成へ全組織あげての協力を推進することになった。

このため、新財源として前回に決定した「組織協力金」が、初施行なかばを待たず、早くも大幅修正された。

また、「昭和49年度日本協会収支決算」が承認された。

なお、この日に同時招集をうけていた全国理事会（定数33名以内現在数29名）は、開会時の出席者が12名で過半数に満たなかったため不成立、来場した各理事は、代議員会を傍聴して散会。

◇　◇　◇

全国代議員会の次回招集は10月19日（東京）とされていたものだが新執行部選出後、日本協会財政の緊迫で、補正予算が編成され、この日の緊急招集となった。

会議は、事業関係の諸事項報告を承認したあと、ただちに「50年度補正予算審議」に入り、財務部から大筋の説明が行われた。

昭和50年度予算については、2月23日の第1回全国代議員会（東京）で、延々3時間の議論（本誌128号参照）を重ね、一応煮つめつくされたのだが、その後、300万円を目論んだ企業からのバックアップが思惑どおりに運ばなかったことや、世界女子アジア予選支出（韓国遠征253万、イスラエル招待717万）にともなう洗いなおしなどがあって、5月17日の全国理事会（本誌131号参照）では、旧年度内にたてた財政計画、予算案を、事実上、白紙に戻さざるを得ない結果となり、「役員協力金」の復活によって〝急場〟をしのぐことなどを新たに申し合せた。

これにともなって、特別編成の財務委員会が、事業予算の手なおしと、新しい財源確保をねり、次のような収入計画をまとめあげ、代議員会の承認を求めた。

昭和50年度日本協会 収入予算（案）

加盟金	1,190,000
登録金	5,280,600
補助金	2,490,000
検定料	4,450,000
審査料	650,000
刊行物純益	750,000
機関誌収益	1,550,000
組織協力金A	1,060,000
同B(協賛広告)	4,700,000
役員協力金	2,000,000
計	24,120,600

このうち「組織協力金」は2月の会議では47組織を3ランクに分け106万円を見積っていたものだがその額では、収支見合わせ切れずこの日改めて、470万円の上のせが示され、1組織10万円均当の〝負担〟が打ち出された。

2月の会議で、3ランク決定にこぎつけるまでにも長時間の議論が展じられたいきさつもあり、執行部は窮状を訴えるとともに、新しい意向として、同額を「機関誌への協賛広告でもよい」とした。

機関誌協賛広告については、すでに昨年度から1組織あたり2口（1口1万円）の協力が呼びかけられており、「現金協賛よりも、この方法が募金しやすい」との声もあった。

これに対して各代議員は、納入方法がどうであれ一気に一律10口への〝増額〟に難色を示し、協賛広告にしても昨年度の実績が、11組織26口（24万円）と、当初予定の47組織94口（94万円）をはるかに下廻っていることなどを指摘、「協力しない組織へのペナルティ」も論じられた。

荒川理事長は、「現在のところ執行部としてはペナルティは考えていない。協賛広告については、50、51年度にまたがって1組織10万円を完納することにしてはどうか」と説明、いくつかの議論のあと、「2年度にわたり1組織10万円(10口)」を議決した。

この決定で、別表の「組織協力金(B)」の50年度見積りは40％程度（188万円）になろう。

なお、荒川理事長は、2月に決定した「組織協力金」は、現在までに35組織がすでに納入を完了、旧来の「協賛広告」は50年度に入って8組織から13口が寄せられていることを明きらかにした。

「役員協力金」も5ランクに

「役員協力金」は、日本協会役員はもとより、組織（47都道府県協会）、加盟団体(5全国連盟）の全役員をも対象とする〝寄附集め〟で3年前にいちど試みられ、予定額104万円が完納されている。

昭和50年度日本協会部別予算決定までの経過

	予算決定額(円)(昭50.7.31)	要求額(円)(昭50.1.15)	第1次査定(円)(昭50.2.22)	第2次査定(円)(昭50.3.29)
総務企画	9,626,710	16,144,400	13,459,400	9,681,900
財務	430,000	370,000	280,000	280,000
技術	3,300,000	8,972,000	6,500,000	5,500,000
審判	1,712,000	3,712,000	3,712,000	3,712,000
普及・指導	1,257,000	3,096,000	1,296,000	1,257,000
同中学委	700,000	1,000,000	700,000	700,000
編集委	6,000,000	7,390,000	7,180,000	6,980,000
3部合同	50,000	50,000	50,000	50,000
合計額	23,075,710	42,734,400	33,177,400	28,160,900

この時は、一役員一千円がベースとされたが、今回は役職によって二万円から一千円まで5つのランクを設けることを財務委員会が示し、予定額も200万円と伸びた。

「役員協力金ランク」

〔A〕 1人10,000円（各都道府県協会々長）
〔B〕 1人 5,000円（日本協会代議員及び日本協会・全国連盟理事）
〔C〕 1人 2,000円（ブロック理事）
〔D〕 1人 1,000円（各都道府県協会役員）
〔S〕 1口20,000円（日本協会々長・副会長）

この件についても、活発に意見が出されたが他に200万円をこす財源を確保する手だてがないとあって、各代議員も了承、9月上旬までに、会長・理事長名による協力要請文書の発送を手配することになった。

なお、5月の全国理事会で「役員協力金」は2年度に亘る「分割納入」を認めることとしていたが「組織協力金(B)」が分割となったため、年度内納入へ修正された。

このほか縮少が取り沙汰される佐賀国体のチーム数配分については、参加人員確定後、執行部で原案を作成することが承認され、いぜん流動する「アジア・ハンドボール界」についても、オリンピック予選を含め、執行部が引きつづき対応することとなった。

「プレオリンピック代表」については、本誌2頁所報のとおり承認された。

「オリンピック基金」は予選に活用

日本協会は7月31日の全国代議員会で、ミュンヘンオリンピック以降の48年度から今年度までの3ケ年間に蓄積された「オリンピック基金」211万円（48年度約69万円、49年度約66万円、50年度約75万円＝推定）のうち、100万円を男子のモントリオールオリンピックアジア予選（詳細未定）に、100万円を女子のモントリオールオリンピック3大陸代表決定戦（51年7月）に、それぞれ活用することを正式決定した。

（注）35年度から47年度までに積み立てられた「オリンピック基金」約230万円は46年度のミュンヘンオリンピックアジア予選、47年度のミュンヘンオリンピックの両事業で費消されている。

協会財政 いっそう緊迫状勢

□……それにしても今年度の予算決定は難産だった。

別表でも判るとおり、各部が要求額を事務当局へ提出したのは今年の1月。実に半年かかってようやくまとめあがったのである。

当然のことながら、要求額は大幅にダウン。「ヤング全日本」の活動休止をはじめ総額で、53%におさえこまれた。つまり今年は、各部が考えていた事業の半分しか実施できない。

悪くても要求額の60%程度は認められていた例年に比べたら〝最悪の事態〟である。

しかも、この傾向は、今後ますます強められるだろうから、場合によっては50%確保さえ危くなる年度も生まれよう。

一部にささやかれる「事業縮少」が、いよいよ現実味を増してきた感じが強い。

□……今年度にしても、収入が目いっぱいだけになお楽観は許せない。

チーム、個人登録料や加盟金などは、6月30日現在で、すでに確定数字がはじき出されているが、65万円を見込んでいる審判審査料や445万円を皮算用している検定料などは、不安定な要素が多く、この510万円に沈みが起きた場合には、三度目の修正という非常事態を招くことになる。

苦渋の「49年度収支決算」

□……史上初とも云われる苦渋のうちにしめくくられた「49年度日本協会収支決算」（別掲）が承認された。

すでに5月、日本体協から派遣された二人の公認会計士の監査と日本協会監事（49年度）山田稔氏の監査をうけているが、ついに当期決算でマイナス一〇、七三〇、八四〇円と、44年度の一〇、〇二四、二二四円を上廻る欠損をよぎなくされた。

□……赤字の原因は執行部の説明によると世界女子アジア予選が、まずAゾーン(韓国)で、異例の全経費持ちより法式のため約170万円のマイナス、さらに決勝（対イスラエル戦）が東京に於ける密室試合決行で、収入ゼロに対し総支出約717万円、この事業で合わせて約887万円が飛んだと云う。

当初、執行部は、Aゾーンでの持ち出しは多くても50万円、決勝も、2月、対インドを予想し、会場（東京・駒沢）まで予約、入場料、放映料などで収支トントン、悪くても航空費用分担にあたる250万円程度のマイナスでおさめるつもりだったのだから、大誤算である。

□……このほか、物価高とうのあおりで約186万円の予算オーバーもあり、前年までの剰余金約530万円をすべてはたき出し、なお543万円の欠損。

日本体協補助金など約252万円の未収入金があるため、実質的な赤字は291万円だが、それは数字の上のはなし。物価高に加えて、〝興行的〟に採算のとりにくいアジア交流がからんで、日本協会財政の前途は、極めてけわしいと云わねばなるまい。

昭和49年度日本協会
収　支　決　算
（単位円）

【収入】	
加盟金	1,190,000
登録料	5,140,400
検定料	2,050,000
審査料	650,800
補助金	3,358,000
機関誌購読料	5,651,596
同広告料(含協賛広告)	2,055,000
競技規則売上	864,760
テキストブック売上	277,020
諸大会事業収入	4,902,347
雑収入	714,933
	26,854,856
【支出】	
・加盟金（ＩＦ.日体協）	195,770
・事務費	
人件費	2,968,140
備品費	327,000
消耗品費	169,055
印刷費	747,120
通信費	669,547
賃借料	674,400
会議費	679,570
雑　費	211,519
・渉外・広報・交際費	346,731
・事業費	
総務企画	1,682,565
財　務	228,000
技　術	5,300,501
審　判	1,027,830
普及指導	1,148,970
中　学	650,000
機関誌刊行	6,146,719
ＩＦ会議費	740,497
大会参加料	133,018
諸大会事業費	13,382,789
・雑損失	55,000
・借入金利息	100,955
	37,585,696
【当期損失金】	10,730,840

男子、清水(千葉)が初、女子は小松市女(石川)

高松宮賜杯をかけて，炎天下に若者が心と技と力を競う第26回全日本高校選手権（インター・ハイスクール）は，8月2日から7日までの6日間（8月1日開始式）にわたり，山梨県塩山市の塩山中学特設グランドで熱戦をくりひろげた。

全国の激しい予選を勝ち抜いた男女各49校は，さすがにたくましい攻守を示し，好試合がつづいたが，男子は，清水(千葉)が，前評判の高かった岩国工(山口)を，雨中戦で降し初優勝，千葉県に初の栄冠をもたらした。

女子は，抽せん勝負が2試合もあるなど白熱したが，強力ディフェンスの小松市女(石川)が，決勝で大分東（大分）を制し，2年ぶり2度目の優勝を飾った。来年の第27回大会は富山県氷見市で行われる。

第26回全日本高校選手権

男子

修道、延長で聖光降す
沖縄工は添上を破る

▽1回戦

氷見（富山）14（5−5 9−3）8 県岐阜商（岐阜）

チームプレーに優った氷見が後半10分から勝負を決める5点連取岐阜はプレーの連けいに欠けた。

熊本市商（熊本）19（8−6 11−7）13 八幡工（滋賀）

熊本が幅広い攻撃で、八幡守備陣をゆさぶり制勝。八幡もなかなか多彩な攻撃だったが散発的。

洛北（京都）15（6−6 9−5）11 浦和西（埼玉）

ともに凡失が多く、せりあいの割に盛り上らなかった。基本技に欠けているのは感心できない。

日川（山梨）16（8−3 8−5）8 東根工（山形）

日川のスタートはよく、いきなり5−0。東根も追いあげたが日川の守りは最後まで乱れなかった

修道（広島）17（4−11 10−3 : 1−1 2−0）15 聖光学院工（福島）

前半なかばで圧倒的優位に立った聖光だが、後半気を許したのかプレーが消極的。そこを修道につかれて延長。こうなるとペースは勢いにのる修道のものだった。

沖縄工（沖縄）20（10−7 10−12）19 添上（奈良）

力のこもった好試合。最後まで予断を許さなかったが、沖縄に僅かな余裕があり、決勝点をあげた

函館有斗（北海道）14（3−1 11−1）2 鹿児島工（鹿児島）

両校ともディフェンスが荒く、しかも攻撃に決め手がない。後半鹿児島はスピードが落ち自滅。

小松工（石川）13（7−3 6−6）9 松山東（愛媛）

小松が前半の好機を確実に活かして先行。松山は後半動きが滑らかとなったが追い切れずに終る。

拓大一（東京）26（9−6 17−3）9 坂出工（香川）

一進一退の前半とうって変った後半は、ロング、ポストを駆使する拓大一の一方的な展開。

津山工（岡山）24（12−4 12−4）8 神埼農（佐賀）

津山の走り勝ち。神埼はプレーが荒く、相手の速攻にほとんど守りが無策のままで過ぎた。

名古屋市工（愛知）31（14−4 17−1）5 城北（徳島）

名古屋は鮮やかなパスワークで好機をほとんど得点に結びつけ城北につけているスキを与えなかった。

大分東（大分）21（10−3 11−1）4 那賀（和歌山）

多彩な大分、単調な那賀。大分は攻守ともに、よくリズムにのって、相手を寄せつけなかった。

国学院栃木（栃木）18（7−4 11−8）12 柏崎工（新潟）

柏崎が後半15分にタイとしてがぜん白熱したが、国学院はすぐに速攻で3点をとり勝負を決めた。

此花学院（大阪）14（6−3 8−2）5 関東学院（神奈川）

関東は此花の出足の早い守りに攻撃の芽をつぶされ、一方、此花は速攻がさえて着々加点した。

佐世保北（長崎）14（8−6 6−7）13 坂城（長野）

大型同士。坂城はいちど逆転したが、佐世保の立ち直りは早く再逆転、逃げこんだ。

武庫工（兵庫）14（7−3 7−8）11 花巻北（岩手）

花巻が再三粘り、緊迫したが、前半の先行で余裕をもつ武庫工は僅少差でもち応え、振り切った。

土佐（高知）15（8−7 7−7）14 倉吉工（鳥取）

互いに守りが弱く、活発な打ちあいとなった。土佐は切り札・田所が好調で、倉吉をねじ伏せた。

久留米工、辛くも勝つ
拓大一、大曲農に快勝

▽2回戦

久留米工（推・岡）17（7−6 10−10）16 氷見

優勝候補同士にふさわしい好試合。互角の戦況から残り30秒、久米はFTで決勝点をあげた。

熊本市商 12（9−0 3−5）5 藤岡（群馬）

熊本のセット攻撃で前半は一方的。ところが後半は藤岡のロング戦法があたり、球趣を取り戻した

洛北 23（9−3 14−6）9 都城泉丘（宮崎）

洛北は前日よりプレーがまとまり、攻守ともに危気なく、特に後半は、鮮やかな展開だった。

日川 19（13−6 6−9）15 若狭（福井）

若狭は前半に凡失が多く、そこをつかれて失点、後半は動き勝ちしていただけに悔やまれよう。

修道 9（3−4 6−3）7 笠間（茨城）

両GKの堅守で互いに勝機をつかめなかったが、修道は後半、速攻が実って一気に逆転を遂げた。

四日市工（三重）14（6−8 8−5）13 沖縄工

四日市が辛くも逆転したが、沖縄の健斗をここは賞したい。後半あと一息あれば勝てる試合だった

函館有斗 17（6−3 11−5）8 浜田水産（島根）

函館が地力を示し、遅攻に頼ろうとする浜田を押し切った。函館の攻撃は変化に富んでいる。

岩国工（山口）23（13−4 10−3）7 小松工

岩国は攻守のバランスがとれ、特に守備力の固さが光った。小松工の頑張りは清々しい印象。

拓大一 19（8−4 11−4）8 大曲農（秋田）

予想外の大差。大曲はゴール前での動きが悪く、シュートが単調で、相手に反撃機を与えていた。

名古屋市工 18（6−4 12−5）9 津山工

前半、津山は守りの健斗でもつれたが、後半になると名古屋は持ち前の攻撃力を爆発させた。

大分東 18（8―6 10―4）10 塩山商（山梨）

勝負のかかった後半、大分は速攻、セットの使い分けが当たり、粘る地元・塩山を突きはなした。

仙台育英（宮城） 15（5―6 5―4 …… 3―1 2―2）13 国学院栃木

二転三転から、延長にもつれこんだあと、仙台が疲れのみえた国学院のディフェンスを破って優位に立ち、粘る相手をかわした。実力互角の見応えある試合だった。

此花学院 16（7―5 9―3）8 青森（青森）

後半、青森は走りが止まり、ボールの回転も鈍く好機を活かせなかった。此花は終始マイペース。

佐世保北 9（5―3 4―5）8 清水市商（静岡）

ともにリズムをつかめず、歯切れの悪い展開で、特に清水はミスも多く、終盤の反撃も空しかった

清水（千葉） 22（11―11 11―7）18 武庫工

テンポのある好試合。後半なかば清水は速攻で僅かに優勢、そのリードを手固く守り切った。

小倉西（福岡） 19（6―5 13―1）6 土佐

同型のチーム。接戦の前半から一転、後半は小倉西が一方的に攻めまくった。土佐はスタミナ負け。

全日本高校選手権 歴代優勝校

	【男子】	【女子】
①昭25	足利（栃木）	操山（岡山）
②	桜台（愛知）	青陵（岡山）
③	桐生工（群馬）	寝屋川（大阪）
④	桜台	稲沢（愛知）
⑤	桜台	寝屋川
⑥	桜台	明善（福岡）
⑦	桜台	寝屋川
⑧	桜台	水海道二（茨城）
⑨	清水商（静岡）	熊本市立（熊本）
		寝屋川
⑩昭34	中京商（愛知）	熊本市立
⑪	中京商	熊本市立
⑫	中京商	半田（愛知）
⑬	桜台	静岡城北（静岡）
⑭	桜台	静岡城北
⑮	明星（東京）	栃木女（栃木）
⑯	桜台	静岡城北
⑰	明星	秋田和洋女（秋田）
⑱	明星	花巻南（岩手）
⑲	下関中央工（山口）	菊池農（熊本）
⑳昭44	下関中央工	新居浜市商（愛媛）
㉑	新居浜工（愛媛）	水海道二
㉒	湯沢（秋田）	山陽女（広島）
㉓	中大附属（東京）	深谷女（埼玉）
㉔	名城大附属（愛知）	小松市女（石川）
㉕	久留米工（福岡）	大谷（大阪）
㉖昭50	清水（千葉）	小松市女

小倉西、清水に屈す
岩国工苦しめた函館有斗

▽3回戦

久留米工 10（3―5 7―4）9 熊本市商

両チームとも前半スローペースの試合運びで、個人技のある熊本が一歩リードしたが、後半は、久留米のスピードが復調、じわじわと失点を盛り返し、逆転勝ち。

日川 17（7―4 10―8）12 洛北

日川は速いペースで試合を運ぼうとしたが、洛北はじっくりと構えて乗らず。しかし、攻撃の多彩さとスピードで優る日川は巧みに点差を拡げ、地元の声援に応えた

修道 13（6―4 7―7）11 四日市工

後半13分四日市工は同点に追いついたが、修道はそのあと要所で得たPTを着実に活かして先行。

四日市は、プレーに思い切りが欠け、修道のペースにはめられた

岩国工 15（9―7 6―4）11 函館有斗

脚力、シュート力ともほぼ互角の前半だったが、岩国はFTでエース・泉（ヤング全日本）が巧みにポイント、有利に進めた。函館の健斗は賞されていい。

拓大一 13（6―5 7―4）9 名古屋市工

スケールの大きい展開となったが、拓大一はつねに先手をとる巧妙な試合運びで名古屋の反撃を封じた。名古屋は後半焦りも手伝って追撃機を逃していた。

大分東 12（5―5 7―5）10 仙台育英

訓練の行きとどいたチーム同士だけにテンポがあった。後半、大分東はプレーがキメ細かとなり仙台の守りを崩した。仙台も粘ったが、はね返せずに終った。

此花学院 19（12―3 7―5）8 佐世保北

佐世保は此花のマンツウマンディフェンスにとまどい、攻めあぐみからミスをつづけ、此花に逆速攻を仕掛けられた。後半、持ち直しただけに惜しい。

清水 16（8―5 8―7）12 小倉西

清水の斗志が波乱を呼んだ。調子のでない小倉西は、それでも後半1点差まで詰め寄ったのだが、清水はひるまず強気に攻めたてて点差を拡げ、会心の勝利をあげた

日川、前半の善戦実らず
大分東、後半の反撃遅し

▽準々決勝

久留米工 20（8―6 12―5）11 日川

得	【久工】		【日川】	得
0	矢永	GK	菊島坊	0
0	大城	GK	野沢	0
2	赤司	FP	菊島一	0
3	安田		山本	1
10	長野		武藤	3
0	栖原		樋山	3
3	田中		宮本	2
0	原		有賀	1
1	横溝	（審・佐野 大塚）	清水	1
0	草島		川合	0
0	吉田		水上	0
1	原田		新谷	0
20	（1）	PT	（1）	11

久留米の出足はよく主導権をあっさり握ったが、日川も追いあげ

後半に望みをつないだ。しかし久留米は後半になると長野を中心に再び猛攻、力の差をみせつけた。

岩国工 17（5—6／12—3）9 修道

	【岩国】	得	【修道】	得
GK	中元	0	本広	1
GK	大野	0	岩田	0
FP	上村	1	河野	1
FP	植木	3	島川	0
FP	泉	9	家本	0
FP	藤山	0	松湘	0
FP	坂本	3	川上	4
FP	山下	1	山本	3
FP	中村	0	吉野	0
FP	山本	0	稲田	0
FP	村重	0	夜船	0
FP	藤本	0		

（審・永山・住尾）

17（3）PT（0）9

前半、岩国はFTが決まらず苦戦、修道はGK本広の得点などで押し気味だった。後半になると岩国は泉がたて続けにポイント、一気に勢いづき、最後は快勝だった

拓大一 17（9—4／8—8）12 大分東

	【拓大】	得	【大分】	得
GK	塩原	0	高橋	0
GK	戸田	0	林	0
FP	岩尾	6	河野	2
FP	工藤	2	戸田	1
FP	星野	2	巌水	0
FP	大久保	3	出来本	0
FP	藤本	4	荻本	1
FP	森本	0	富米	0
FP	直井	0	吉良	2
FP	三田	0	南	6
FP	三尾	0	志村	0
FP	塚本	0	篠田	0

（審・徳前・田島）

17（2）PT（2）12

大型選手を並べた拓大一だが、この日はサイドから得点、幅のあるところを見せた。大分も最後まで力をふりしぼり、後半の攻撃が前半に出ていたら、と惜しまれた

清水 22（7—5／15—3）8 此花学院

	【清水】	得	【此花】	得
GK	板橋	0	国木	0
GK			小林	0
FP	石川	5	山口	1
FP	仲田	6	井上	3
FP	小松	0	池原	0
FP	山口	9	吉田	1
FP	森川	2	松田	3
FP	島越	0	坂原	0
FP	荒金	0	松藤	0
FP	菊地	0	佐	0
FP	山本	0	奥野	0
FP	清水	0		

（審・斉藤・三枝）

22（2）PT（0）8

力の清水、技の此花。前半は持ち味が活かされた好試合だったが後半になると、波にのっている清水が、速攻を連発させて、みるみるうちに点差を拡げた。

久留米工のV2成らず

▽準決勝

岩国工 14（10—6／4—5）11 久留米工

	【岩国】	得	【久工】	得
GK	中元	0	矢永	0
GK	大野	0	大城	0
FP	上村	0	赤司	0
FP	植木	1	安田	1
FP	泉	8	長野	7
FP	藤山	1	楢原	0
FP	坂本	4	田中	2
FP	山下	0	原	0
FP	中村	0	横溝	0
FP	山本	0	堂島	0
FP	村重	0	古田	0
FP	藤本	0	原田	1

（審・大塚・佐野）

14（0）PT（1）11

岩国・泉、久留米・長野と今大会を代表する両エースを中心に活気のある好試合となった。

前半は同じようにチャンスがあったが、岩国はGK中元の堅守で傷口をふさいだのが大きかった。

後半は、久留米が長野のミドルなどで、むしろ押し気味に試合を運んだのだが、岩国には、前半のリードが、大きな余裕となっており、久留米のV2の夢は消えた。

清水、拓大一を振り切る

清水 9（4—3／5—3）6 拓大一

	【清水】	得	【拓大】	得
GK	板橋	0	塩原	0
GK			戸田	0
FP	石川	1	岩尾	2
FP	仲田	5	工藤	1
FP	小松	2	星野	0
FP	山口	1	大久保	1
FP	森川	0	藤本	1
FP	島越	0	森本	0
FP	荒金	0	直井	0
FP	清水	0	三田	0
FP	菊地	0	三尾	1
FP	山本	0	塚本	0

（審・徳前・田島）

9（2）PT（0）6

立ちあがりはともに動きが固く、重苦しいムードだったが、清水は7分小松が均衡を破ってから流れがよくなり3—0、拓大一もすぐに反撃したが、清水はがっちりと先行の手をはなさずに進めた。

後半、拓大一のペースになりかけた場面もあったが、清水のチームプレーは固く、GK板橋の好守もあって、堂々の決勝進出を遂げた。

岩国工に〝雨中戦〟の不運

▽決勝

清水 7（4—1／3—3）4 岩国工

	【清水】	得	【岩国】	得
GK	板橋	0	中元	0
GK			大野	0
PF	石川	0	上村	0
PF	仲田	3	植木	1
PF	小松	2	泉	1
PF	山口	2	藤山	1
PF	森川	0	坂本	0
PF	島越	0	山下	1
PF	荒金	0	中村	0
PF	菊地	0	山本	0
PF	山本	0	村重	0
PF	清水	0	藤本	0

（審・大塚・佐野）

7（0）PT（0）4

降りしきる雨をついて試合は強行された。

この雨がどちらに幸いするか、が優勝の行方に大きく作用されるとみられたが、果たして清水が、巧者山口を中心に、細かいパスをつないで、着実なプレーを見せたのに対し、岩国は足場の悪さで豪放な攻撃がまとまらず、苦しいなりゆきとなった。

清水は、仲田、小松、山口で手固くポイント、相手の攻撃を山下の1点に留めて前半を終了。

後半、岩国工も動きがよくなり反撃を試みたが、清水もダブルポストからの展開で優位をキープ、GK板橋も冴えて、ついに大敵を押し切り、感激の初優勝を遂げた。

両者同条件とはいいながら、あまりにも雨が激しすぎ、選手には気の毒だった。

清水・日根野監督の話　此花戦の後半から波にのったと思う。ある程度の自信はあったがさすがに各校とも強く、一戦々々を確実に臨んだのが、勝因といえるだろう。



女子決勝の後半あたりから激しさを増した雨は、男子決勝直前には、〝豪雨〟といってもよいほど。

清水(千葉)、岩国工(広島)とも、秀れた攻撃力を看板にしてきただけに、雨中決行を惜しがる声もコートサイドで聞こえた。

コート係の人たちの苦労もたいへんなもの。少しでもよい状態にと、総出で水はけに精出し、ズブ濡れになっての奉仕(写真)は、感動的。

選手たちの「技と力」、補助員たちの「心」、正に今年のスローガン通りのシーンであった。

大谷（前年優勝）2回戦で姿消す

女子

米沢女、武生商に逆転勝ち
徳山は古賀の追撃かわす

▽1回戦

小松市女（石川）13（8－0、5－2）2 須賀川長沼（福島）

前半で大勢が決まった。須賀川は小松の厚いディフェンス網を突き破れず、細谷の2点だけだった。

深谷女（埼玉）13（5－4、8－1）5 小禄（沖縄）

後半になって地力の差が出た。小禄はよく動いたものの深谷守備陣を切り崩すには力不足。

日川（山梨）11（6－2、5－1）3 池田（徳島）

脚力にまさる日川が、立ちあがりから池田ゴールを襲い順当勝ち。池田は攻撃が単調にすぎた。

市邨学園（愛知）12（4－3、8－1）4 神埼農（佐賀）

速攻の応酬で前半はなかなか見応えがあったが、後半になると神埼のプレーは雑に流れてしまった。

徳山（山口）8（5－0、3－5）5 古賀（福岡）

徳山が巧く好機を活かしたのに対し、古賀は反則などで前半無得点、後半の反撃も遅かった。

岐阜南（岐阜）8（4－3、4－3）6 夙川学院（兵庫）

最後は岐阜の体力勝ちだったが終始、逆転の興味をはらむせりあいで、好試合といえた。

麻生（茨城）18（9－1、9－4）5 函館商（北海道）

麻生は相手ミスを速攻に結びつけ、着々と得点。一方の函館は麻生の固い守りにあい完敗だった。

涌谷（宮城）13（7－1、6－1）2 高松南（香川）

涌谷の出来は必しもよくなかったが、高松南は攻撃に正確さを欠き、一方的な経過をたどった。

小林商（宮崎）27（14－0、13－2）2 城山（高知）

あまりにも実力差がはっきりしすぎ、25点差という大会新記録。これまでは24点（26－2）。

栃木女（栃木）23（12－1、11－2）3 松江家政（島根）

栃木はいきなり7点を奪い、あっさり試合の主導権を握り、松江は、つけこむスキがなかった。

甲府商（山梨）13（6－4、7－1）5 守山女（滋賀）

先行したのは守山だが、甲府はすぐに速攻、ポストで逆転、その後もミスの多い守山を攻めたてた。

佐世保商（長崎）19（7－3、12－6）9 金川（岡山）

佐世保はソツのない攻撃で、速攻不調の金川を引きはなし、後半も多彩なプレーで快勝した。

清水市商（静岡）10（5－0、5－1）1 青森西（青森）

青森はポストに頼りすぎたため巧者を揃えた清水に難なくおさえこまれてしまった。意外な凡戦。

小諸商（長野）12（5－1、7－4）5 桐生女（群馬）

小諸はGK今井の好配球を活かして相手陣内になだれこみ、序盤で得た主導権を最後まで握った。

大分東（大分）23（10－1、3－1）2 添上（奈良）

大分のディフェンスは強く、添上のシュートはほとんどはね返され、パワーの差を露した。

国分実業（鹿児島）8（5－4、3－2）6 粉河（和歌山）

先行する国分を粉河はよく追いこんだが、シュート力があと一つ足りず、国分の逃げ切りを許した。

米沢女（山形）9（4－5、5－3）8 武生商（福井）

押されていた米沢は、後半よく盛り返し、終了間ぎわ逆転した。武生にとっては悔やまれる一戦。

涌谷、昭和学院ら敗れる
新潟江南、PT活かし進出

▽2回戦

小松市女 5（3－4、2－0）4 大谷（推・大阪）

前半優勢の大谷は、後半動きがまったく止まり、あっさり小松に逆転を許してしまった。

山陽女（広島）9（3－5、4－2……1－1、1－0）8 深谷女

粘りあいの末、山陽は延長後、和久井の好技で勝利を握った。深谷も小柄ながら、みごとな動きをみせたが、前半せっかくのリードを活かせなかったのは惜しい。

小杉（富山）9（4－4、5－2）6 日川

後半になってから小杉が攻撃力をととのわせ、次第に点差を開いて、粘る日川を押し切った。

市邨学園 16（7－2、9－1）3 米子南商（鳥取）

総合力の差が出た。米子は市邨の波状的な攻撃を捌きされず、攻撃面でもスピードに欠けた。

徳山 8（5－1、3－1）2 石神井（東京）

惑星といわれた石神井だが、徳山の厚いディフェンスに攻撃がしぼみ、よいところなく敗れた。

新潟江南（新潟）7（5－4、1－2……0－0、1－0）6 岐阜南

岐阜は江南の激しい当りにとまどったが、後半ペースをつかみ逃げ切ったとみえた。しかし痛いところでPTをとられ延長。江南は土たん場で再びPTから決勝点。

麻生 8（5－3、3－3）6 京都精華女（京都）

精華の追撃で好試合となったが麻生は、終盤、速攻を実らせて2点をあげ、そのまま逃げこんだ。

熊本市立（熊本）7（4－1、3－5）6 涌谷

熊本はダイヤモンド形のユニークな守備陣型。涌谷は後半どうに

か馴れて反撃したが空しかった。

秋田和洋女(秋田) 15(10 5―4 2)6 小林商

和洋が攻防両面で伝統のフットワークを活かし、なんとか粘ろうとする小林商をつきはなした。

栃木女 14(8 6―0 2)2 甲府商

序盤は五分の戦況だったが、しだいに栃木の速攻がさえ、後半はポストもまじえて加点した。

住吉学園(大阪) 10(6 4―3 6)9 佐世保商

前半の劣勢をはね返した住吉は一気に逆転へもちこめず苦しんだが、最後は相手の疲れに乗じた。

清水市商 10(7 3―4 5)9 明倫(神奈川)

清水は後半なかば初めて先行、どうにか押し切ったが、明倫の攻守も見応えがあり敗退が惜まれる。

小諸商 17(10 7―1 2)3 盛岡二(岩手)

盛岡二はポストプレーに頼りすぎ、速攻、ロングで攻めたてる小諸に次第に点差を拡げられた。

大分東 17(11 6―3 5)8 暁(三重)

健斗の暁は、後半守りが乱れ、大分東の容しゃない攻撃を浴びてしまい、思わぬ大差がついた。

国分実業 10(3 7―2 1)3 昭和学院(千葉)

優勝候補とみられた昭和だが、どうしたことか元気なく、国分の小気味よい走りに押しまくられた

新居浜商(愛媛) 19(9 10―2 5)7 米沢女

米沢は前半なかば4―6と迫ったが、新居浜はあわてず、そのあと一気にたたみかけた。

抽せんに泣いた江南、栃木

国分実業、新居浜商破る

▽3回戦

小松市女 14(8 6―4 2)6 山陽女

前半、小松は山陽女のミスをついて速攻、ポスト、ロングで加点優位に立った。山陽は、小松の守備陣を攻めあぐみ、後半もほとんど勝機がないままに退けられた。

市邨学園 10(7 3―2 3)5 小杉

小杉は前半好調に試合を進め、期待をもたせたが、後半になると市邨の太田を軸にしたスピードある攻撃に受け身となり、反撃の気勢もあがらなかった。

徳山 6(1 0 : 3 2―0 1 : 1 4)6 新潟江南

引き分け。抽せんで徳山の勝ち

江南は延長前半、藤田の得点で先行、そのまま押し切るかとみえたが、徳山も後半伊藤が回生の一打を決めて同点。江南は延長前まで優位だっただけに悔やまれよう。

麻生 8(6 2―2 5)7 熊本市立

麻生は3点の不利を後半よくとりもどした。この粘りが勝因だ。

熊本は、後半動きが鈍り、前半のリードを活かせなかったばかりか、あっさり逆転を許した。

秋田和洋女 8(1 0 : 3 4―1 0 : 6 1)8 栃木女

引き分け。抽せんで秋田の勝ち。

大激戦。栃木は後半、秋田の低迷をつき盛り返した。延長後半、栃木はPTで初めて先行したが、秋田もすぐにロングをとばして追いついた。非情な結末といえた。

清水市商 9(8 1―2 2)4 住吉学園

前半のせりあいも、後半になると、清水の一方的な展開となり、緊迫感をうすらさせた。住吉は清水が前半不振のスキに、差をつけておくべきだった。

大分東 19(10 9―3 8)11 小諸商

二転三転の好ゲームで、女子にはめずらしい〝打撃戦〟だったが後半に入ると、小諸にやや疲れがのぞき、大分は5点連取などあって、主導権を握った。

国分実業 9(4 5―2 3)5 新居浜商

国分の堅実なプレーは目立つものがある。新居浜もけして力では劣らないが、国分が次々と繰り出す攻撃の芽を摘みきれず、守りの面でも国分に一歩をゆずった。

麻生、徳山にせり勝つ

植田(清商)一人で全得点

▽準々決勝

小松市女 15(10 5―4 2)6 市邨学園

得	【小松】		【市邨】	得
0	酒谷	GK	大嶋	0
0	西川	GK	服部	0
1	庄国	FP	蟹江	0
2	中山	FP	正治	0
2	本田	FP	太田	0
3	千歩	FP	辻本	3
6	木戸	FP	矢田	0
0	小野	FP	加藤	1
1	西出	FP	本多	2
0	田中	FP	稲垣	0
0	山下	FP	今重	0
0	八木	FP	山本	0
15(1)		PT		(1)6

(審・為橋 山下)

小松はセット、市邨はロング多用の攻撃と対象的だったが、やはり女子ベスト8ともなれば、着実に相手の守りを切り崩すほうが有利。小松の的確さが一枚上だった。

麻生 7(3 4―3 3)6 徳山

得	【麻生】		【徳山】	得
0	滝ケ崎	GK	久野	0
0	市田	GK	通山	0
0	箕輪美	FP	伊ケ崎	2
0	中川	FP	前田	1
0	那司	FP	藤井明	0
0	箕輪よ	FP	藤井美	0
0	鈴木	FP	伊藤	2
5	磯山	FP	松田	0
0	宮内	FP	上井	0
0	吉田	FP	赤川	1
2	関口	FP	小川	0
0	森川	FP	亀山	0
7(1)		PT		(2)6

(審・植田 後藤)

麻生は前半、磯山の大活躍で優位に立った。徳山も離れず後半16分にはタイとしたが、麻生は18分関口が貴重なシュートを決めて先行の利をキープ、せり勝った。

清水市商 6(2 4―2 1)3 秋田和洋女

得	【和洋】		【清水】	得
0	鈴木智	GK	堀池	0
0	鈴木鈴	GK	岸山	0
1	小野	FP	片山	0
1	石井	FP	岡田	0
0	金	FP	遠藤	0
0	古谷	FP	山下	0
0	鈴木久	FP	若月	0
1	佐藤	FP	高木	0
0	阿部	FP	植田	6
0	寺村	FP	岩城	0
0	鈴木ま	FP	高木	0
0	池田	FP	小野	0
3(1)		PT		(0)6

(審・伊崎 小林)

0―1のあと清水はセットから植田のカットインであっさり優位を取りもどした。後半は互角だったが、清水は植田が一人で全得点を叩き出す殊勲で快勝した。

大分東 14(9 5―2 3)5 国分実業

得	【大分】		【国分】	得
0	大平	GK	方福	0
0	滝川	GK	和田	0
2	高橋	PF	義川	0
3	菅本豊	PF	柿田	0
2	重清	PF	烏丸	0
3	薬師寺	PF	山下	0
0	那須	PF	手塚	3
4	菅本清	PF	渕元	1
0	姫野	PF	萩原	1
0	大土井	PF	上小園	0
0	人崎	PF	東木	0
0	板井	PF	師田	0
14(2)		PT		(0)5

(審・栗城 内田)

絶好調の国分は前半、押し気味だったが、大分はなかばすぎに得たPTで反撃のきっかけをつかみ、あっという間に逆転、その後もよく走って貫録勝ちした。

小松、前半に大量リード

▽準決勝

小松市女 13(6 7―6 1)7 麻生

得	【小松】		【麻生】	得
0	酒谷	GK	滝ケ崎	0
0	西川	GK	中田	0
0	庄田	FP（審・槇田・後藤）	箕輪美	1
0	中山	FP	中川	0
1	本田	FP	郡司	0
1	千歩	FP	箕輪よ	0
6	木戸	FP	鈴木	0
5	小野	FP	磯山	3
0	西川	FP	宮内	0
0	田中	FP	古田	0
0	山下	FP	関口	3
0	八木	FP	森川	0
13	(0)	PT	(0)	7

　固さがほぐれた前半10分すぎから、小松はFTを活かして千歩、木戸らが得点、守っても出足のよさで、麻生の走りを食い止め7—1と大量リードを奪った。

　後半になると、麻生もどうにか相手陣内を突き抜けることができ得点をあげたが、小松には追われても余裕があり楽々とかわした。

　麻生にとっては、前半の崩れが惜しまれる。

大分東、前半から優勢

大分東 16（7—2 9—3）5 清水市商

ともに洗れんされたチームプレーを誇り激戦とみられたが、大分が巧く波にのったのに対し、清水は先行された焦りも手伝って、シュートが甘く、前半から、やや一方的な展開になった。

　後半も、大分の好調がつづき全員がそつなくプレー、さすがの清水もなす術がないままに、試合を終えてしまった。

得	【大分】		【清商】	得
0	大平	GK	堀池	0
0	滝川	GK	岸山	0
3	高橋	FP（審・永山・小林）	片山	0
7	菅本豊	FP	岡田	1
2	重清	FP	山下	1
2	薬師寺	FP	遠藤	0
0	那須	FP	若月	0
1	菅本清	FP	高木	0
0	姫野	FP	植田	2
1	大上井	FP	岩城	1
0	木崎	FP	高木	0
0	板井	FP	小野	0
16	(0)	PT	(0)	5

反撃空しかった大分東

▽決勝

小松市女 5（3—1 2—2）3 大分東

　危気なく勝ちあがってきた両校も、ゴール目前とあって動きが悪く、およそ10分間無得点。ようやく大分が菅本清で先行したが、小松はむしろこれで固さがほぐれ、千歩のロングで同点としたあと、再び千歩、木戸でリードを奪った。

　大分は、小松の厚い守りにコンビネーションを寸断され、なかなか追加点があげられない。

　後半に入って、雨が降り出し、コンディションは悪くなる一方だったが、両チームとも、よく動き感動的な決勝戦となったが、大分はどうしても、前半の2点差をはねのけることができず、小松に逃げこまれた。小松の勝因は、すばらしいスタミナに裏付けられたディフェンスの強さにあり、この試合も、その特色がよく発揮された。

　小松市女・谷口俊春監督の話

　選手は故障気味だったが、よくやってくれた。

　今年は周囲の期待が大きく、それだけに苦しい面もあったが、選手は、指示どおりに動いてくれた。

　「優勝」はなんど味わってもいいものです。

得	【小松】		【大分】	得
0	酒谷	GK	大平	0
0	西川	GK	滝川	0
0	庄田	FP（審・後藤・槇田）	高橋	0
0	中山	FP	菅本豊	0
1	本田	FP	重清	1
0	綾	FP	薬師寺	1
2	千歩	FP	那須	0
2	木戸	FP	菅本清	1
0	小野	FP	姫野	0
0	西川	FP	大上井	0
0	田中	FP	木崎	0
0	山下	FP	板井	0
5	(0)	PT	(0)	3



（写真）小松市女はダイナミックな攻撃で大分東を制した

日韓高校交流幕開く

　2年ぶりで復活された第9回（女子第2回）日韓高校交流〜第7回日韓高校スポーツ交歓競技会〜は、8月22日から男女各2試合の予定で全日本高校選手権優勝の男・清水（千葉）、女・小松市女（石川）が遠征してソウル市で行われている。

　本誌〆切り（8月22日）までに結果は入電していないが、このところ各分野で押され気味な日韓交流だけに意気あがる両校への期待は大きい。

全国中学生大会

御桜ク（愛知）と鶴城ク（熊本）が優勝

真夏のエベントとして定着した第4回全国中学生大会は8月17、18の両日、石川県小松市体育館（第1日は小松市立芦城中グランド）に全国各地域予選を勝ち抜いた男女各10校が参加して行われ、男子は御桜ク（東海、愛知）、女子は鶴城ク（九州、熊本）が優勝を飾った。スコア横の氏名は「選手名簿」。

▽男子1回戦（2試合）

左近山（関東・神奈川） 10（5－4、5－4）8 松橋（九州・熊本）

（左近山）K西村、玉木、F小松、平山、大田、佐藤、高橋、細井、篠井、山中、鈴木、野木、桜井、谷口、井上（KはGK、FはFP）

（松橋）K緒方利、吉田、F坂井、久野、畠中浩、森、小場佐、畠山、畠中秀、緒方正、池田、牧田、林田、西山、下田

釧路北（北海道） 12（5－2、7－2）4 桜町（四国・香川）

（釧路北）K高杉、須郷、F田村、矢萩、川口、吉田、橋本、紙西、中川、若原、吉口

（桜町）（K白井、多田、F鬼東、藤岡、越智、小池、滝、林、堀内、松本、山川、川西

▽同準々決勝

大阪選抜（近畿） 13（4－5、6－5、…、2－1、2－1）12 左近山

（大阪選抜）K岩井、友沢、F大野、高野、磯嶋、引原、菅沼、秋山、浜辺、島谷、酒井、井坂、井川、見島、杉野

御桜ク（東海・愛知） 14（10－5、4－6）11 氷見西部（北信越・富山）

（御桜）K古谷、玉津、F豊江、垣中、大川、上田、深井、若林、三輪、西山、青木、垣中、竹田、荒川、山田

（氷見西部）K向、F関谷、松田、小久保、山崎、大門、宮下、中山、大坪、山本、光安、西山、瀬戸、中原

釧路北 9（3－7、6－1）8 下松（中国・山口）

（下松）K柳、藤田、F弘中、中村逸、伊藤、久保田、大室、古川、森野、田中、荒田、中村滋、中原、稲月、原田

御幸（開催地・石川） 10（6－3、4－0）3 東仙台（東北・宮城）

（御幸）K中村、稲垣、F西出、土山、中林、八十山、福田、魚津、本村、山村、北川達、前出、梅川、北川秀、幸山

（東仙台）K浦山、桜井、F村上、平岡、奥村、今野、佐藤、栗原、加藤、高橋、日野、小川、佐々木、藍沢、菅原

▽同準決勝

御桜ク 13（4－5、9－2）7 大阪選抜

釧路北 14（5－4、9－5）9 御幸

▽同決勝

御桜ク 16（11－6、5－8）14 釧路北

【釧路】		得
GK	高杉	0
	須郷	0
FP	田村	0
	矢萩	2
	川口	5
	吉田	0
	橋本	2
	紙西	3
	中川	2
	若原	0
	吉口	0
		14

【御桜】		得
GK	古谷	0
	玉津	0
FP	豊江	4
	垣中	0
	大川	3
	上田	4
	深井	1
	三輪	0
	青木	0
	竹田	0
	荒川	3
	山田	1
		16

（審・竹野、越田）

16（1） PT （0）14

熊本代表、2年連続の栄冠

▽女子1回戦（2試合）

玉造（関東・茨城） 8（1－1、7－2）3 加納（東海・岐阜）

（玉造）K小松崎、石田、F宮内、松金、山口、高塚文、小池、関野、小沢、大輪、高塚順、小野瀬、荒井、栗又、青木

（加納）K石樽、松波、F青木、川部、渡辺、北洞、藤吉、岡田、加藤、西堀、多田、野村、宮田、熊田、松野

般若（北信越・富山） 12（5－2、7－4）6 塩江（四国・香川）

（般若）K斉藤、豊川、F山原、竹部、関(紀)、前田、池田、安念、荒井、安藤、関(智)、古井、林、久田、長森

（塩江）K川田、小笠原、F山田、尾形、中野輝、植松、藤沢佳、川田、長曽、藤沢千、和泉、上原、中野智、上田、中井

▽同準々決勝

光陽（北信越・福井） 12（5－2、7－5）7 岐陽（中国・山口）

（光陽）K中田、谷口、F久保、石川、縫原、笹原、岩野、宮腰、角野、岩佐、山下、三上、竹内、浦井、南部

（岐陽）K岡村、伊藤、F徽原、原田、宮本、有田、西村、宮崎、大木、田中、越智、中邑、石田、神本、小野

小松南部（開催地・石川） 10（5－2、5－2）4 般若

（小松南部）K稲葉、竹本、F小路、大西、小田、谷口、宮野、橋本、土田、土山薫、藤田、土山友、高林、五十嵐、元

生駒（近畿・奈良） 11（5－3、6－5）8 小川（東北・福島）

（生駒）K前川、吉田、F山岡、杉山、坂上、高木、岩田、田中、都築、稲口、門田、磯本、阪本、林、遠藤

鶴城ク（九州・熊本） 11（4－1、7－3）4 玉造

（鶴城）K津島、高浜、F山下、芥川、鈴木、平江、岡部、岡本、那須、中嶋、野田、木下、中山、山口、成田

▽同準決勝

鶴城ク 9（6－3、3－3）6 光陽

生駒 11（8－3、3－5）8 小松南部

▽同決勝

鶴城ク 12（7－3、5－4）7 生駒

【生駒】		得
GK	前川	0
	吉田	0
FP	山岡	1
	杉山	1
	坂上	0
	高木	4
	岩田	0
	田中	1
	都築	0
	稲口	0
	門田	0
	磯本	0
		7

【鶴城】		得
GK	津島	0
	高浜	0
FP	山下	0
	芥川	7
	鈴木	0
	平江	2
	岡部	2
	岡本	1
	那須	0
	中嶋	0
	野田	0
	木下	0
		12

（審・伊藤、曽谷）

12（3） PT （1）7

大会を観て

勝 繁夫

全国中学生大会も第4回を迎えますます盛りあがり、整然とした大会運営、そして参加選手の高校大会と見まちがうような体格などいちだんと成長を示した。

当然のことながら、プレーにも進境がうかがわれ、"華麗"ともいえる展開を見せたチームが、二三にとどまらなかったのには、目

を見はらされた。

また、今年も父兄ぐるみの大応援団が会場へ乗りこみ、その声援によって、この大会独得の雰囲気を高めているのは印象的であった。

真剣なプレーのなかにあって、チームも、指導者も、選手も〈勝敗〉に対して淡々としており、心からハンドボールを愉しんでいるように見受けられたのも、すばらしいことであった。

日本協会の願う〝底辺への普及〟は、まさにこの大会を、この選手たちを素直に育てあげることに尽きるのではあるまいか。

（日本協会常務理事・同普及指導部長）

全国高専、15校で熱戦

第2回全国高専選手権は、8月28、29日の両日、愛知県豊田市の豊田高専球技場に、全国から15校が集って開かれる。

今年は一部の地域で予選が行われるなど高専界も抗充されつつある。

前回優勝の宇部（山口）はエントリーしていない。

出場校次のとおり。（詳報次号）

釧路高専（北海道）、関高専（福島）、長岡高専（新潟）、富山工業高専（富山）、東京都立工業高専（東京）、育英高専（東京）、沼津高専（静岡）、鳥羽商船高専（三重）、豊田高専（愛知）、大阪府立工業高専（大阪）、明石高専（兵庫）、呉高専（広島）、高知高専（高知）、北九州高専（福岡）、鹿児島高専（鹿児島）

大阪府立高専、近畿で勝つ

第12回近畿地区高専体育大会ハンドボール競技は8月2、3の両日京都・舞鶴高専体育館などで5校が参加して行われ、大阪府立高専の優勝となった。

▽予選ラウンドA組（リーグ）
大阪府立高専 19－9 奈良高専
大阪府立高専 23－9 舞鶴高専（京都）
奈良高専 14－9 舞鶴高専
▽同B組（1試合）
和歌山高専 15－9 明石高専（兵庫）
▽決勝トーナメント1回戦
大阪府立高専 20－14 明石高専
和歌山高専 12－8 奈良高専
▽3位決定戦
明石高専 12－10 奈良高専
▽決勝
大阪府立高専 12－6 和歌山高専

関東学生女子2部を結成

青山学・学習院・千葉大 茨城大・都留文化大

関東学連は、9月25日に開幕する関東学生秋季リーグ戦から、女子の部に初めて2部を設けることを正式に決めた。

これは、これまで独自のリーグを編成していた青山学院、学習院女子短大（以上東京）、千葉大（千葉）、茨城大（茨城）、都留文化（山梨）の5大学が、関東学連入りを望んだためにとられた措置で、女子加盟校は一気に10校へ増えた。

昭和21年発足（24年～36年春まで中断）以来、体育学部系大学が中心の関東女子学生界に、これらの大学が加えることは、いっそうの拡充へつながるとみられ、すでに早稲田にも女子同好会の発足が伝えられている。

また、男子も大東文化、東洋、日本医科歯科大などの新加盟で、50校にふくれあがり、5部は18校を3グループに分けるという大世帯になった。

大会総評・金原至

役員としてもちろん、全国中学生大会を初めて見、感銘を新たにした。

特に会場の雰囲気。父兄による〝応援団〟のもとで、力いっぱいのプレーをくりひろげる中学選手の活躍ぶりは、日本ハンドボール界の〝底辺〟〝底力（そこぢから）〟としての心強さを感じさせるに充分である。

4年目を迎えて、試合内容もいちだんと濃くなったようだ。

男子では、優勝した御桜ク（東海・愛知）をはじめ、大阪選抜、釧路北（北海道）などは、中学ばなれした技術、戦術を示し、したがって釧路北×大阪、御桜ク×釧路北戦は、スケールの大きい、しかも手に汗をにぎる好試合だった。

釧路北は、北海道では現在2校しかハンドボール活動をしている中学校は無いそうだが、よく訓練されており、特に準々決勝・下松（中国・山口）戦を3－7から逆転した気力は、印象に残るものであった。

女子では、鶴城ク（九州・熊本）が、攻防両面で早い動きをみせて他のチームを寄せつけず抜群の力を示した。

これについで生駒（近畿・奈良）、光陽（北信越、福井）、玉造（関東、茨城）、小川（東北、福島）などが目立った。

さすがに全国大会だけあり、地方の中学大会では見られぬ実力校揃いで、総体的に申し分ない大会といえよう。

「参加校数の再検討」など、いろいろ課題もかかえてはいるようだが、日本ハンドボール界あげて、いっそうこの大会を育て、盛りあげていきたいものである。

（大会審判長）

ブロック中学生大会

第4回北海道 （8月4日・札幌南高体育館）

▽男子決勝（＝参加2校）

釧路北 14（7-7、7-5）12 函館湯川

釧路北は2年連続3度目の優勝

第4回関東 （7月26、27日・横浜深谷台小）

▽男子準々決勝（＝1回戦）

左近山（神奈川）25（9-2、16-2）4 山辺（栃木）

富岡（神奈川）13（5-5、8-2）7 山梨大付（山梨）

蓮田（埼玉）17（8-2、9-1）3 関東学院（神奈川）

麻生一（茨城）35（21-3、14-5）8 布佐（千葉）

▽同準決勝

左近山 21（7-1、14-3）4 富岡

蓮田 11（4-3、7-4）7 麻生一

▽同決勝

左近山 14（7-1、7-4）5 蓮田

左近山は2年連続2度目の優勝

▽女子準々決勝（＝1回戦）

玉造（茨城）13（8-0、5-3）3 児玉（埼玉）

吹上（栃木）16（6-0、10-1）1 蒔田（神奈川）

塩山（山梨）17（8-0、9-3）3 片岡（群馬）

柏第三（千葉）5（3-2、2-2）4 左近山（神奈川）

▽同準決勝

玉造 14（8-2、6-8）10 吹上

柏第三 10（3-3、5-5：2-1）9 塩山

▽同決勝

玉造 17（10-4、7-2）6 柏第三

玉造は2年連続2度目の優勝、

第3回中国 （7月27日・広島進徳女子高）

▽男子準決勝（＝参加4校）

成羽（岡山）26（14-3、12-3）6 境港一（鳥取）

下松（山口）19（6-4、13-5）9 長浜（広島）

▽同決勝

下松 20（11-8、9-4）12 成羽

下松は初優勝

▽女子決勝リーグ（参加3校）

落合（岡山）20（12-1、8-1）2 神辺（広島）

岐陽（山口）24（13-0、11-2）2 神辺

岐陽 10（5-4、5-1）5 落合

【順位】①岐陽②落合③神辺＝岐陽は初優勝。

小川ク（熊本）敗れる

第4回九州 （7月26、27日・佐世保市大野中）

▽男子1回戦

深堀（長崎）17（8-0、9-4）4 神森（沖縄）

鏡（熊本）20（8-2、12-0）2 相知（佐賀）

仲西（沖縄）11（5-3、6-6）9 国分（鹿児島）

神埼（佐賀）12（6-3、6-3）6 吉野（福岡）

▽同準々決勝

深堀 25（9-1、11-2）3 五十市（宮崎）

鏡 16（8-3、8-4）7 城南（福岡）

松橋（熊本）19（10-4、9-9）13 仲西

大野（長崎）13（9-2、4-6）8 神埼

▽同準決勝

深堀 12（8-2、4-3）5 鏡

松橋 19（8-4、11-5）9 大野

▽同決勝

松橋 12（7-2、5-7）9 深堀

松橋は初優勝

▽女子1回戦（3試合）

鶴城ク（熊本）19（9-3、10-5）8 神森（沖縄）

青山（大分）10（4-2、3-5：3-2）9 吉野（福岡）

仲西（沖縄）20（7-2、13-1）3 佐世保ク（長崎）

▽同準々決勝

鶴城ク 30（14-0、16-0）0 芙蓉（佐賀）

大野（長崎）17（11-3、6-2）5 青山

仲西 15（9-3、6-8）11 川辺南（鹿児島）

小川ク（熊本）24（10-0、14-1）1 神埼（佐賀）

▽同準決勝

鶴城ク 18（11-1、7-3）4 大野

小川ク 12（4-6、5-3：3-1）10 仲西

▽同決勝

鶴城 9（3-1、6-4）5 小川ク

鶴城クは初優勝。決勝で敗れた小川クは、昨年度全国中学生大会優勝チーム。

氷見西部と小松南部勝つ

北陸3県中学校総合体育大会ハンドボール競技は、8月5、6日富山県小矢部市の石動小体育館で行われ、男女ともリーグの結果、氷見西部（富山）、小松南部（石川）のインター・ミドル代表校が順当勝ちした。

【男子】①氷見西部（富山）②御幸（石川）③高浜（福井）

【女子】①小松南部（石川）②光陽（福井）③般若（富山）

投書欄・明日への提言

全国高校総体が今年はめずらしく東京を中心に開かれ、東京の予選で負けてしまった僕も、開会式（国立競技場）を観ることができ、なんとなく興奮をおぼえました。

ハンドボールは、山梨県塩山市で他競技同よう、熱戦をくりひろげていたようですが、あまり新聞などで取りあげられず、どのような経過をたどっているのか判りませんでした。

今回に限らずハンドボールはマスコミに登場する機会が非常に少なく、それが、ハンドボールの知名度をいつまでも高めない大きな原因になっている感じです。

去年は、12月の全日本（東京体育館）が新聞で大きく取りあげられ、今年のイスラエルとの女子もすごかったのですが、やはり、東京など大都市で大会を開く必要があるのではありませんか。

日本実業団リーグも、地方ばかりで、記録しか報じられていません。

マスコミにのれば、ファンも競技者も増えるのですからあらゆる面で対策をたてて下さい。

【東京・設楽清史・高校生】

全日本教職員選手権

大阪イーグルス、2度目の5連覇

第18回全日本教職員選手権は、8月10日から13日までの4日間、佐賀県神埼町の県立神埼高グランドに男子36、女子7チームが参加して行われた。

男子は、大阪イーグルスが独走に近い快進撃を果たしたのに対し、有力とみられたスワロー兵庫、三重、茨城らが次々に敗れ、決勝は大阪イーグルス×オールドイーグルス（大阪）の同門による顔合せから若さの大阪イーグルスが順当勝ち、5年連続11度目の優勝をはたした。（第5回の大阪教員ク優勝も含む）

3年目の女子は、予想どおり大阪×愛知の決勝となり、大阪が快勝、3年連続の首位となった。

男子3位も大阪教員クが握り、教員界は完全に大阪勢によって制せられた。

茨城、千葉ら早くも敗退

▽男子1回戦（4試合）

静岡教員団 14（5—5、9—8）13 埼玉フェニックス

青森教員団 14（3—6、11—6）12 ロイヤルスワロー（兵庫）

広島教職員 24（12—7、12—8）15 宮崎教員

福井教員 15（5—6、10—8）14 岩手教員ク

▽同2回戦

和歌山教員ク 18（9—5、9—6）11 山口県教員団

高知教員 23（10—3、13—4）7 大垣農業高教員（岐阜）

栃木教員 15（7—8、8—4）12 岐阜教員

愛教ク（愛知） 28（10—3、18—5）8 長崎教員

三重教員団 16（8—6、8—6）12 千葉教員

長野教員ク 14（9—4、5—7）11 佐賀教員

熊本教員 21（10—3、11—10）13 京都教員

オールドイーグルス（大阪） 28（13—7、15—6）13 香川教員

鹿児島教員 33（15—6、18—9）15 兵庫愛球会

神奈川教員団 29（11—13、18—8）21 大分教員

大阪教員 18（8—5、10—8）13 東京教員

福岡教員 19（8—5、11—8）13 和歌山教員B

大阪イーグルス 28（15—5、13—2）7 静岡県教員団

愛知教員 36（20—1、16—4）5 青森教員団

スワロー兵庫 32（14—5、18—8）13 広島教職員

福井教員 19（10—7、9—6）13 茨城教員

〇……前年2位の茨城が福井の健斗にあい早くも姿を消した。

1回戦で岩手を9—12から一気に逆転して波に乗った福井は、前半なかば好守備をみせて茨城に10分近く得点を与えず、後半は東川の巧技で着実に好機を活かし、波乱を招いた。

三重×千葉も有力同士らしく白熱。先行する三重に、千葉はようやく後半15分追いついたが、走力に優る三重は、残り5分間にたてつづけの得点、押し勝った。

栃木が岐阜に逆転勝ちしたのも好試合、後半5分8—10とされた栃木だが、そのあと中山の巧技を中心に連続4点、主導権を奪った。

同型の大阪（教）×東京は乱戦気味。大阪は後半15分14—11から3点をもぎとり、どうにか大勢を決めた。

地元・佐賀は終盤激しく追いこんだものの、前半、守りが甘く勝ち進めなかった。

このほかでは、1回戦で静岡がフェニックス（埼玉）の猛反撃をかわして勝ったのが目についた。

愛知×青森は意外の大差に終った。

鹿児島、三重をかわす
栃木も兵庫に逆転勝ち

▽同3回戦

大阪イーグルス 26（10—1、16—4）5 和歌山教員ク

栃木教員 20（7—10、13—7）17 スワロー兵庫

鹿児島教員 13（6—4、7—8）12 三重教員団

大阪教員ク 13（5—5、8—2）7 熊本教員

高知教員 22（14—8、8—8）16 長野教員ク

オールドイーグルス 17（7—4、10—3）7 愛教ク

愛知教員 15（6—3、0—7）10 神奈川教員団

福井教員 23（9—7、14—8）15 福岡教員

〇……優勝圏内とみられた三重、スワロー兵庫が揃って敗れた。

前半優位のスワローは後半も8分まで順調に加点、14—10としたのだが、そのあと守りが甘くなりサイドから巧みに好機をつかむ栃木に詰め寄られ15分同点、こうなると若手の多い栃木が勢いづき、連続得点を奪って勝った。

歴代優勝チーム

①昭33	茨城教員ク
②	東京教員団
③	神戸ストーク
④	休会
⑤	大阪教員ク
⑥～⑩	大阪イーグルス（5連勝）
⑪	埼玉教員ク
⑫	東京教員
⑬	埼玉教員ク
⑭～⑱	大阪イーグルス（5連勝）

三重は、苦しみながらも後半12分9—8と先行、ペースを握ったかに見えたのだが、鹿児島・平山の果敢な攻撃にあって、あっさり主導権を奪い返され、必死の反撃も空しかった。

好調の福井は、前半20分までは福岡に押され気味だったが、そのあと持ち直し、後半10分16—10と開いた。

高知が、集中攻撃で長野を降したのは巧かった。

大阪勢3チームが進出

栃木、前半のリード活きず

▽同準々決勝

大阪イーグルス 21（12—4, 9—6）10 鹿児島教員

鹿児島は大阪の固いディフェンスを攻めあぐみ、パスカットから逆襲をうけて前半で勝負が決まった。

得	【大阪】		【鹿児】	得
0	本田	GK	海江田	0
1	高橋	FP	東屋敷	0
4	池本		山並	1
1	足羽		中原	0
2	安達		川添	2
2	河原崎		平山	5
6	早川		田上	1
3	福井稔		尾上	0
2	橋本		赤塚	0
0	福井孝	（審・宍戸 板橋）	馬場口	1
			末広	0
21	（1）	PT	（2）	10

大阪は豊かな練習量を思わす鮮やかな連けいを攻守で見せた。

愛知教員 37（21—5, 16—12）17 高知教員

得	【愛知】		【高知】	得
0	水藤	GK	隅田	0
0	唐沢			
4	松浦	FP	西山	4
3	斉藤		北氏	0
4	長縄		細木	3
8	深津		酒井	9
7	細川		北代	0
3	山田		松本	0
2	古富		久良谷	0
2	松本		谷岡	1
4	原田	（審・浦山 山本）		
37	（0）	PT	（2）	17

激しい射ちあいとなったが、後半になると愛知の速攻を、高知はさばききれず、一気になだれこまれて思わぬ大差がついた。愛知のムラのなさが相手を上廻った。

大阪教員 17（12—5, 5—7）12 栃木教員

ク

得	【大教】		【栃木】	得
0	宍倉	GK	高橋	0
0	逢坂			
7	久下	FP	山下勝	1
3	中村		山下宏	0
0	水原		住森	0
5	谷口		二宮	1
0	森脇		川田	2
0	谷岡		河先	1
1	中出		中山	6
1	佐谷		伊藤	1
0	藤田	（審・荒谷 東）	山本	0
0	宗形			
17	（1）	PT	（0）	12

栃木は前半20分すぎ巾山と山下（勝）で先行したが、後半開始直後大阪の久下、谷口の巧技にポイトを奪われ、そのあとは攻撃がまとまらず、相手のペース。大阪の気力が賞される一戦だった。

オールドイーグルス 24（11—9, 13—2）11 福井教員

得	【オ・イ】		【福井】	得
0	島崎	GK	五島	0
0	広川			
0	東	FP	竹野	1
1	田中		大塚	1
7	青木		志々場	0
4	北岡		島田	2
0	村田		東川	2
4	樫塚		上坂	1
4	木村		塚崎	2
2	奥浜		清水	0
2	井上	（審・横瀬 片山）	竹内	2
24	（2）	PT	（0）	11

オールド守備陣はベテラン揃いらしく強気で向かってくる福井を巧みにかわし、前半は分以降無失点。好機で青木、北岡、木村が着実に得点してリードを奪い、後半も五分に射ち合って、ベストフォアへ躍り出た。試合の流れ、勘どころをとらえるのが実に巧い。

愛知教員、押しまくられる

▽同準決勝

大阪イーグルス 26（10—6, 16—5）11 愛知教員

得	【大阪】		【愛知】	得
0	本田	GK	水藤	0
			唐沢	0
1	高橋	FP	山田	1
3	早川		細川	0
3	足羽		深津	2
3	河原崎		長縄	2
6	池本		斉藤	2
4	安達		松浦	2
5	福井稔		原田	2
1	橋本		古富	0
0	福井孝	（審・福田 佐伯）	松本	0
26	（1）	PT	（0）	11

みごとなりイーグルス一門

□…「勝負はお前たちにまかせる。オレたちは楽しむだけ…」と云うのが、日ごろオールドイーグルスと〝現役〟イーグルスとの間に結ばれた密約(?)である。

それがどうだ。〝オールドの味〟を存分に発揮したOBたちは1回2回ならまだしも、4回も約束を破って決勝へ進出。現役の5連覇の前に立ちはだかった。

□…決勝を前に、〝若鷲〟たちは策戦もなにもあったものではない。

ミーティングで「優勝を目指せ！油断するな」と気合いをいれた兄貴分・井上祐人監督は、一夜明ければ敵方の主力である。

それに、ユニホームは現役とOBがペア。男の汗で結ばれた先輩—後輩のきずなは、ともかく明日だけは、プッつり切れる。

□…学生（日体）時代から栄光の道を歩みつづけていたOBたちが第一線を退いたのは、5年前の岩手国体教員決勝で埼玉に敗れたあとだった。

その年の夏、全日本教職員準決勝で、やはり埼玉に第2延長、17—19と壮烈な敗退をしている。

それは、新しいイーグルス誕生への〝陣痛〟でもあった。

□…跡を継いだ若鷲は期待に応え、翌年、全日本教職員の王座を奪還、以後、この大会では不敗を誇っている。

クラブチームとしては限界とも思える1週4日の定期練習。

全員が体育教官、教え子の面倒を見終えてから、自分たちのトレーニングに駆けつける。

「きょうは一日中グランドを走りまわっていた」ということも、稀ではなくなる。

□…5連覇への自信はできた。決勝の相手は宿敵・スワロー兵庫か、茨城か、それとも同郷の新進大阪教員か。

予想は嬉しく狂った。オールドイーグルスが、楽しげに勝ちあがってきたのだ。

□…それは、「みごと」と云う以外に言葉はなかった。

緩急をわきまえた巧みな展開、ハンドボール一筋にうちこんだ熟練者の手際である。

教え子のプレーには、めっぽう点の辛い荒川清美氏（日本協会理事長）も『申し分のない巧さ』と絶讃した。

だが、選手たちはクールだ。

『もし僕らに準優勝者として誇れるものがあるとしたら、それはチームワークだけ。

現役を盛り立てようと練習などを手伝っているうちに、力が甦えってきた。

厳しい練習で芽生えたチームワークほど、力強いものはありません』というのは東嘉伸選手。

51才の村田弘、41才のGK光島磯雄をはじめ37才の東、35才の井上、34才の北岡大覚、青木義男ら平均年令34・5才。

彼らから学びとるのは、何時にかわらぬハンドボールへ取り組む真しな姿勢ではなかろうか。

（S）

なんとか大阪勢の一角を崩そうとする愛知だったが、大阪の固い守りを突破できず、前半10分4－5とせりあったまでで、あとは散発的に得点を返しただけ。
守っては、GK本田（オリンピック候補）の好パスアウトから速い攻撃を仕掛けてくる相手攻撃陣にゆさぶられ、よいところなく敗れた。
それでも最後まで反撃の態勢を解かずわたりあったのは好感がもてた。

延長で老鷲甦える

オールドイーグルス 21（10－10、7－7、…、1－2、3－1）20 大阪教員ク

【大教】		得
GK	宍倉	0
GK	逢坂	0
FP	久下	7
FP	森脇	0
FP	中出	3
FP	佐谷	3
FP	中村	3
FP	谷口	3
FP	藤田	1
FP	谷岡	0
FP	荒川	0
FP	宗形	0

【オ・イ】		得
GK	島崎	0
GK	広川	1
FP	青木	7
FP	樫塚	1
FP	北岡	4
FP	田中	0
FP	東	2
FP	木村	1
FP	奥浜	1
FP	井上	4
FP	村田	0

（審・近藤・三友）

21（3）PT（3）10

若い大阪（教）は、自からオールドと名乗る一群に押し切られてしまった。
互いにセットからの攻めあいで激しい点のとりあいとなったが、決定的なリードを奪えず、七たび同点のあと延長戦へもつれこんだ
誰の目にも大阪有利とうつり、事実、前半1分佐谷、5分藤田でリードしたのだが、老巧なオールドイーグルスは、スカイプレーなどの奇襲に出て挽回－逆転。
動きのある好試合であった。

大阪教員ク、3位に

▽同3位決定戦
大阪教員ク 25（10－5、15－7）12 愛知教員
力の差はないと見受けられたが気力で大阪に歩があり、特にエース・久下は一人で13点をたたき出す活躍を示し、初の3位を決める原動力となった。

巧さ、若さには一歩ゆずる

▽同決勝
大阪イーグルス 32（17－5、15－7）12 オールドイーグルス

【オ・イ】		得
GK	広川	0
GK	島崎	0
FP	樫塚	2
FP	青木	2
FP	北岡	1
FP	東	2
FP	井上	3
FP	奥浜	1
FP	木村	0
FP	田中	1
FP	村田	0

（審・板橋・宍戸）

【大阪】		得
GK	本田	0
FP	池本	4
FP	安達	4
FP	高橋	4
FP	早川	5
FP	足羽	2
FP	河原崎	3
FP	福井稔	6
FP	福井孝	1
FP	橋本	3

32（1）PT（2）12

同門とあって、やはり緊迫感はうすい。
〝現役〟は5分3－1から早川福井稔、河原崎、安達らで楽々とゴールを奪い20分12－2、その後も攻撃の手をゆるめず快勝、8～12回に次ぐ2度目の5連勝を飾った。敗れたとは云えオールドイーグルス健斗は絶讃されよう。

★ベストセブン
・GK 本田　洋
・FP 高橋精一（いずれも大阪イーグルス）
　　安達修三
　　河原崎勇
　　早川清孝
　　福井　稔
　　久下正和（大阪教員ク）

大阪女子、抜群の力示す

▽女子1回戦（3試合）
茨城教員 14（8－1、6－5）6 じゅうもんク（福岡）
熊本教員 20（12－1、8－7）8 岐阜教員
愛知教員 12（4－1、8－3）4 兵庫教員ク

▽同準決勝
大阪教員女子 13（7－1、6－3）4 茨城教員
愛知教員 21（10－1、11－5）6 熊本教員ク

▽同3位決定戦
茨城教員 12（5－4、7－4）8 熊本教員

【熊本】		得
GK	西村	0
GK	渋谷	0
FP	岡部	1
FP	村上	1
FP	吉田真	6
FP	池崎	0
FP	田尻	0
FP	谷脇	0
FP	吉田幸	0
FP	山崎	0

（審・佐伯・福田）

【茨城】		得
GK	綿引	0
FP	小貫	6
FP	大関	1
FP	大工原	0
FP	島田	2
FP	吉原	0
FP	倉嶋	0
FP	尾上	1
FP	黒沢	2

12（0）PT（0）8

▽同決勝
大阪教員女子 22（11－5、11－1）6 愛知教員

【愛知】		得
GK	美濃島	0
FP	宮田	1
FP	近藤	2
FP	中島	1
FP	長縄	1
FP	浜下	0
FP	倉地	0
FP	山田	1
FP	富田	0

（審・近藤・三友）

【大阪】		得
GK	榎本	0
GK	吉田	0
FP	北村	0
FP	津熊	2
FP	中村	4
FP	福田	5
FP	太田	0
FP	繁田	0
FP	大谷	1
FP	堂本	1
FP	畑中	7
FP	名賀	2

22（1）PT（1）6

○…畑中、GK榎本を攻守の要にもつ大阪が抜群のチーム力を示し、危気ない優勝を飾った。
決勝の相手・愛知も兵庫、熊本をなぎ倒し好調だったのだが、大阪は前半15分7－2と開き、その後も着々と加点、一方的な経過となった。

日本協会登録まとまる

日本協会はこのほど「50年度登録チーム」について次のようにまとめた。
総チーム数は二、二一三（男一五〇六、女七〇七）で前年比一八五の増。
いぜん高校の伸び率が高く、男子80、女子44が増え、総数一、五五四校となった。
初めて独立部門となった高専は24校で626人が登録されている。
各部門とも増加の傾向のなかで一般女子Aは3チーム減で、46チームの活動に縮まった。

大体大5連勝、九産大三たび涙のむ

女子は武庫川女が初　西日本学生選手権

東海以西の4学連による第15回（女子第6回）西日本学生選手権は7月31日から8月3日までの4日間、名古屋市体育館を主会場に、男子16、女子6校が参加して行われた。

男子は大阪体大（関西）、九州産大（九州）の有力校が、途中、延長の苦戦などを演じながらも予想どおり勝ち進み3年連続して決勝で顔合せ、大阪体大が九州産大の激しい反撃をかわして5年連続5度目の優勝を飾った。

女子は決勝リーグの末、武庫川女大（関西）が初優勝。

最優秀選手は男子・丸井圭仁（大阪体大）、女子・辻要（武庫川女大）だった。

▽男子1回戦

大阪体大（関西）35（18 17—4 5）9 愛大豊橋（東海）

京都産大（関西）38（27 11—4 6）10 広島修道（中四国）

中京（東海）17（10 7—6 1）7 桃山学院（関西）

大阪経大（関西）36（20 16—7 3）10 愛大名古屋（東海）

名城（東海）31（20 11—6 2）8 追手門学院（関西）

甲南（関西）23（13 10—6 2）8 名古屋学院（東海）

山口大（中四国）21（12 9—6 6）12 岐阜大（東海）

九州産大（九州）28（14 14—5 4）9 関学（関西）

▽同準々決勝

大阪経大 10（4 6—4 2）6 中京

得	【経大】		【中京】	得
0	木村	GK	後藤	0
0	山田	GK	川上	0
1	石井	FP	村上	4
0	塩川	FP	西脇	0
1	林	FP	小島	0
0	山本	FP	高田	0
0	田安	FP	木村	0
4	石田	FP	安藤	1
1	篠原	FP	宮尾	1
3	木下	FP	中野	0
0	大村	FP	西山	0
0	川本	FP	林	0
10	（2）	PT	（1）	6

（審・田中、細井）

大阪体大 20（3 2：2 0：8 5—0 0：0 2：9 4）15 京都産大

得	【体大】		【京産】	得
0	藤井	GK	日比	0
0	松岡	GK	清水	0
6	根本	FP	天本	3
3	矢辺	FP	岩原	1
0	野中	FP	島	0
0	池本	FP	富山	1
1	池田	FP	浅田	0
1	西上	FP	西田	0
3	北川	FP	北野	2
4	丸井	FP	木村	3
0	佐々木	FP	藤本	0
2	能波	FP	生駒	5
20	（2）	PT	（0）	15

（審・永井、坊野）

名城 30（15 15—5 5）10 甲南

得	【名城】		【甲南】	得
0	杉浦	GK	藤岡	0
0	木村	GK	藤田	0
9	山本	FP	古谷	4
3	杉山	FP	辻村	2
2	岩田	FP	野々山	1
0	荒駒	FP	山本	0
0	西尾	FP	松田	0
6	高橋	FP	谷本	0
3	西浜	FP	島田	0
2	谷元	FP	石橋	3
5	鈴木	FP	原田	0
0	安藤	FP	山下	0
30	（1）	PT	（0）	10

（審・角、坊野）

九州産大 32（18 14—7 1）8 山口大

得	【九産】		【山口】	得
0	松高	GK	広瀬	0
0	林田	GK	飛良	0
6	中馬	FP	浜田	3
5	磯口	FP	藤嶋	1
8	青柳	FP	宮崎	2
0	藤春	FP	新見	1
4	柳井	FP	安部	1
3	満重	FP	長田	0
0	北森	FP	松浦	0
3	金谷	FP	川島	0
0	小林	FP	吉沢	0
3	坂本	FP	古賀	0
32	（1）	PT	（2）	8

（審・河野、長谷川）

▽同準決勝

九産大、名城振り切る

九州産大 18（2 2：8 6—1 0：10 4）15 名城

得	【九産】		【名城】	得
0	松高	GK	杉浦	0
0	林田	GK	木村	0
5	中馬	FP	山本	10
1	磯口	FP	杉山	1
4	青柳	FP	岩田	1
0	藤春	FP	荒駒	0
3	柳井	FP	西尾	0
0	満重	FP	高橋	1
0	北森	FP	西浜	0
5	金谷	FP	谷元	1
0	小林	FP	鈴木	1
0	坂本	FP	安藤	0
18	（0）	PT	（7）	15

（審・浅田、横井）

西部で無敗を誇る九州産大と東海1位の名城。実力伯仲の好試合だった。

前半なかばから優位に立った九産大は後半追われながらも常に先行24分14—11とリードした。しかし名城はそのあと、反則退場者を出すなど守りに荒さがのぞく九産大をついて3本のPTを得、延長へもつれこんだ。

延長後は、両校とも固くなり好機をつぶしたが、結局FTから決め手をもつ九産大が巧みにポイント、激戦にけりをつけた。（松井利幸）

大阪体大 21（9 12—7 3）10 大阪経大

得	【体大】		【経大】	得
0	藤井	GK	木村	0
0	阪下	GK	山田	0
8	根本	FP	石井	1
0	矢辺	FP	塩川	3
0	池本	FP	林	1
1	平谷	FP	山本	1
0	池田	FP	田安	0
3	西上	FP	石田	0
5	北川	FP	篠原	0
2	丸井	FP	木下	3
2	佐々木	FP	大村	0
0	能波	FP	川本	1
21	（1）	PT	（2）	10

（審・河野、須賀）

大体大は矢辺、丸井を中心とした速攻で得点、セットでも根本の好配球と池田の俊敏な動きなどでポイントをあげ10分5—1、25分11—2と開き前半で大勢を決めてしまった。

大経大は、大体大の速い帰陣にあって得意の速攻を封じられ、力を充分に発揮できなかった。（小山哲央）

▽同3位決定戦

名城 16（9 7—9 5）14 大阪経大

光る根本（大体大）の巧技

▽同決勝

大阪体大 19（6 13—9 8）17 九州産大

得	【体大】		【九産】	得
0	藤井	GK	松高	0
0	阪下	GK	林田	0
5	根本	FP	中馬	3
3	矢辺	FP	磯口	4
0	池本	FP	青柳	1
0	平谷	FP	藤春	0
0	池田	FP	柳井	1
0	西上	FP	坂本	0
1	北川	FP	満重	0
7	丸井	FP	北森	0
0	佐々木	FP	金谷	6
3	能波	FP	小林	2
19	（3）	PT	（3）	17

（審・稲葉、角）

接戦が予想されたが、なんと前半15分までに、大体大が丸井の活躍などで9点をあげたのに対し、九産大はエース中馬の1点だけ。一方的な経過になるかとみえた。

ところが、九産大はそのあと、金谷、磯口らの奮戦で、じわじわと点差を縮め、ディフェンスも立ちなおって、後半19分には15—16と詰め寄り、場内を騒然とさせた。

しかし、大体大はだいじな局面で巧技をみせチームを引っぱる主将・根本が、ここでもその真価を発揮、21、24分連続ゴールして追いすがる九産大の反撃を断ち切った。

九産大の粘りが賞される一戦だが、それだけに、よけい立ちあがりの乱調が惜しまれる。（松井）

大阪体大の3連勝成らず

▽女子予選ラウンド（3試合）

大阪体大（関西） 12（6—1、6—4）5 中京女大（東海）

武庫川女大（関西） 16（9—2、7—3）5 愛知教大（関西）

中　京（東海） 15（8—3、7—2）5 山口大（中四国）

▽同決勝リーグ

武庫川女 11（6—1、5—2）3 大阪体大

得	【武庫】		【体大】	得
0	田村	GK	梅谷	0
0	六車	GK	堀川	0
0	辻	FP	金森	1
0	三輪		船橋	0
0	谷本		青木	0
0	赤尾		平山	0
1	岩井		大谷	0
8	沢田		松本	1
0	藤本		中津	0
1	小西		大竹	1
1	佐野		加藤	0
0	恒川			
11	（4）	PT	（0）	3

（審・森　河野）

武庫川女 18（10—3、8—4）7 中　京

得	【武庫】		【中京】	得
0	田村	GK	川合	0
0	六車	GK	佐野	0
6	沢田	FP	浦崎	1
3	岩井		石川	3
0	赤尾		伊藤	0
0	谷本		古山	0
3	三輪		都築	1
1	辻		芦野	1
0	藤本		今木	1
2	小西		中根	0
3	佐野		豊本	0
0	恒川		宮嶋	0
18	（1）	PT	（0）	7

（審・須賀　長谷川）

中　京 13（8—4、5—5）9 大阪体大

武庫川の好調が目立った。大体大には、関西学生春季で6—11と敗れているが、この日は攻守とも相手を上廻る動きを見せ、特にディフェンスの強さが、勝因となった。

得	【中京】		【体大】	得
0	川合	GK	堀川	0
0	佐野	GK	滝本	0
2	浦崎	FP	平山	3
1	石川		大竹	3
0	伊藤		青木	0
0	古山		松本	0
1	都築		中津	1
3	芦野		金森	0
6	今木		船橋	0
0	中根		大谷	2
0	豊本		野村	0
0	宮嶋		宮村	0
13	（3）	PT	（0）	9

（審・細井　松原）

中京戦は、身長差を活かし沢田を中心としたダイナミックな攻撃でペースをつかみ、ポスト、サイドからのゆさぶりでゴール、なんとか得点をあげようとする中京の追撃を突きはなした。

中京—大体大は、3連勝の夢が消え気落ちしたのか大体大に精彩がなく、前半こそタイでおさめたものの、後半は中京の今木、芦野らを主力とした攻撃に押され17分7—11とリードを許した。

中京は後半開始直後のスパートが利いた。（松井、笹野邦雄）

北大、全日本学生へ

全日本学生選手権（11月、福岡）への北海道代表権をかけた北海道学生大会は、7月4日から6日まで札幌の北大体育館で開かれた。

7校が参加した男子は、予選ラウンド勝者による決勝リーグの結果、北大が順当勝ち。

女子は3校リーグで行われ、教大釧路が攻守に一日の長を示し2勝をマークした。

▽男子予選ラウンド1次戦

北　大 27—11 教大旭川

小樽商大 32—11 北海道工大

室蘭工大 22—17 教大釧路

▽同2次戦

北見工大 20—12 教大釧路

教大旭川 44—6 北海道工大

▽同決勝リーグ

北　大 21—7 北見工大

教大旭川 28—14 小樽商大

室蘭工大 19—4 北見工大

北　大 11—8 室蘭工大

教大旭川 19—13 北見工大

室蘭工大 — 教大旭川

北見工大 23—14 小樽商大

北　大 — 小樽商大

北　大 21—16 教大旭川

室蘭工大 22—8 小樽商大

【順位】①北大4戦全勝②室蘭工大3勝1敗③教大旭川④北見工大⑤小樽商大

▽女子決勝リーグ

教大釧路 17—4 北星学園

教大旭川 10—9 北星学園

教大釧路 11—8 教大旭川

【順位】①教大釧路②教大旭川③北星学園

九州産大、桁違いの強さ

第25回九州地区大学体育大会ハンドボール競技は、7月12日から14日まで久留米市総合体育館に18校が参加（男子のみ）、九州産大（福岡）が、この大会も抜群の攻守で連続優勝をはたした。

▽1回戦（2試合）

長　崎　大 21（2—0、1—1 ⋮ 11—9、7—9）19 西南学院（福岡）

久留米工大（福岡） 16（2—0、3—1 ⋮ 8—5、3—6）12 東　海（熊本）

▽同2回戦

九州産大（福岡） 26（15—6、11—5）11 熊本大

宮崎大 30（14—6、16—1）7 東和（福岡）

大分大 28（17—5、11—8）13 福岡工大

福岡大 21（12—4、9—4）8 長崎大

沖縄国際大 15（5—8、10—6）14 九州工大（福岡）

熊本商大 32（15—4、17—5）9 久留米工大

福岡教大 16（8—5、8—3）8 長崎造船

鹿児島大 25（12—10、13—7）17 熊本工大

▽準々決勝

九州産大 30（15—2、15—5）7 宮崎大

大分大 13（5—4、8—5）9 福岡大

福岡教大 23（12—5、11—7）12 沖縄国際大

熊本商大 24（9—10、15—2）12 鹿児島大

▽準決勝

九州産大 36（18—4、18—4）8 大分大

熊本商大 20（11—5、9—8）13 福岡教大

▽3位決定戦

福岡教大 26（17—9、9—5）14 大分大

▽決勝

九州産大 21（7—6、14—3）9 熊本商大

東軍のメンバー決まる

9月15日、学生東西対抗

恒例のオールスターズゲーム・第25回（女子第7回）全日本学生選抜東西対抗戦は、9月15日名古屋の愛知県体育館で行われるが、このほど東軍（関東、北信越、東北、北海道）のメンバーが次のように決まった。男子の村田、柴田（法政）、蒲生（中央）は、プレオリンピック参加のため欠場。

（男子）▽監督　田中秀夫（中大監督）▽主務　吉近（中央）▽GK　斉藤（日体、全日本）、田村（中央）▽FP、大熊、藤本、関、西窪、金沢、戸田（以上中央）山田、山高（以上早稲田）、勝地（慶応）、菅野（日体）、西野（北大）、佐野（金沢大）千葉（東北学院）

（女子）▽監督　藤原侑（日体大監督）▽主務　松岡（日体）▽GK　長谷川（日体）、鍋田（東女体）▽FP　藤山、小田、木元、寺尾、林岩本（以上日体）、赤岸、橘（以上東女体）、山田、安藤（以上東京学芸）

ＩＨＦ審判研修会報告①

安藤純光・岡前義春

報告にさきだって今回のＩＨＦ講習会の参加にあたりまして、全国の多数の諸兄から熱意あるご支援を賜りましたことにつき、誌上をかりて厚くお礼申しあげます。

さて、２年に１回開催されるＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）主催の国際審判員研修会は、今年で第15回をむかえ、７月13日から20日まで、オランダのシッタルドに在るリンバーグスポーツセンターで実施された。

シッタルド市はアムステルダムから鉄道で南に約２時間さがった所。

会場は、その市の郊外にあり、プール、サッカー場、テニスコート、体育館、宿舎などをもつ立派な施設であった。

出席者の総数は約130名で、そのほとんどが例によってヨーロッパ。

アジア地域からは、我々のほかにはクウェートのレフェリーだけであった。

ＩＨＦ審判研修会の日程及びテーマ

7月13日　参加チーフレフェリー集合
14日　8.30　開会式
・アルベルト・オランダ協会長挨拶
・ホルレ・ＩＨＦ―ＰＲＣ委員長挨拶
・参加者全員の紹介
9.30　「競技規則の改正について」～1975年度規則にもとづいて～
14.00　「改正点についてグループ討議」
15.30　「全体会議」
19.30　映画（16mm）
15日　8.30　「国際審判員のペーパーテスト問題について」
14.00　「レフェリーのジェスチャーについて」
16日　8.30　「競技規則の適用について」
11.00　「レフェリーのジェスチャーについて(決定)」
13.30　バスツアー
夕刻　ＩＨＦ選抜レフェリー到着
17日　8.30　選抜レフェリーを加えての開会式
9.30　「競技規則の適用について」
14.00　「グループ討議」
16.00　「国際審判員育成の問題点について」
19.30　「実技研修」（22.30まで）
18日　8.30　「レフェリーの観察報告書について」
11.00　映画（16mm）
14.00　「競技規則改正点の解説」
19.30　「実技研修」（22.30まで）
19日　8.30　「レフェリーの心理的，身体的素質について」
14.00　「実技研修」（17.00まで）
20.00　バンクエット
20日　解散

今回の特色は、これまでのような各国の推せん者（各国のレフェリー・ソテイエテイのチーフ、それに準ずる者）のほか、ＩＨＦ自体がリストアップした90名が「選抜レフェリー」の名で参加するようになっていたことであろう。

「選抜レフェリー」は、スウェーデンのオルソン、ニルソン組をはじめ22カ国45ペア、ユーゴの５ペアを最多数にいずれもヨーロッパからの選出であった。

今回は、研修会の日程（＝別掲）をお知らせし、その内容については、次号にご報告することとしたい。

「攻撃制限時間」なお議論

数年前から、にわかに議論が活発となっている「攻撃制限時間設定案」は、ＩＨＦ技術分野の首脳陣が、否定的なこともあって、実現への見通しは、いぜんうすいが支持派の動きは、なおいっそう強まっているようだ。

いまのところ、この案の代表的なものは、昨秋のＩＨＦ総会でソ連が動議した「ボールを保持してから、攻撃が終了するまで45秒をこえてはならない」との、いわゆる「45秒案」で、最近では、スペインあたりも同調しているという。ユーゴは、さらに激しく、「ハンドボールを、よりスピーディかつ魅力的にするため30秒…」を提案している。

ソ連やユーゴは、国内の大会で試行して「成果をあげている」というが、ＩＨＦ筋はいぜん、この提案に拒否反応が強く、オランダで開かれた今回のＩＨＦ審判研修会でも、特に話題とはならなかったようだ。

競技時間をめぐる問題がおこるのは、ストーリングによって、ゲームが消極的となり、ハンドボール特有のスピード感が乏しくなるからだろう。

ディフェンス力の向上もあって最近のビッグゲームが低得点で争われるようになり、見た目の面白さが欠けてきた、という声も影響している感じだ。

「ＧＫの交代は競技時間に加算しない」（ソ連）といった提案がみられるのも、時間かせぎなどを防止するためのものである。

また、ラフに流れる最近の傾向を歯止めするため、反則退場の規定をいっそう強めようという動きも盛んである。

大幅な競技規則の変更は、オリンピック前には行わないという内規があるため、これらの提案はいずれも、来年のＩＨＦ総会で議論されることになる。

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

モントリオール・オリンピック予選が、早いカードは11月3日から始められるとあって、今年のヨーロッパのシーズン開幕は、7月末という急ぎ足である。

トップを飾ったのはタシマイダンカップ、つづいて毎年9月に開くカルパティアカップもすでに行われている。

9月末のカナダカップ（プレオリンピック＝別掲）をはさんで、11月までに、この分ではかなりの数のトーナメントが消化されそうだ。

ソ連、シーズン緒戦飾る
～ユーゴ男子国際～

第15回タシマイダンカップ（ユーゴ国際）は7月18日から3日間にわたって行われ、ソ連が、仕上りの早いところを見せて優勝を飾った。地元ユーゴは2位。

ユーゴ	26	12－14	14－6	20	アイスランド
ソ連	23	9－9	14－11	20	ポーランド
ユーゴ	27	13－14	14－12	26	ポーランド
ソ連	24	8－10	16－9	19	アイスランド
ソ連	29	13－11	16－10	21	ユーゴ
アイスランド	16	6－7	10－7	14	ポーランド

【順位】①ソ連3戦全勝②ユーゴ③アイスランド④ポーランド

（個人得点）①クレムペル（ポーランド）25点

ルーマニア、まずまずの出足
～カルパティア杯～

東欧の強豪が参集する恒例のカルパティア・マウンテンカップトーナメントは、7月25日から30日までルーマニアのブカレスト市など3都市で行われた。

久々に世界チャンピオン・ルーマニアが勇姿を現したほか、東ドイツ、ユーゴ、ソ連、チェコという豪華な顔ぶれ。

連日大観衆を動員し、熱狂ムードのうちに進められ、ルーマニアが順調に勝ちこんで全勝なるかとみえたが、最終戦で東ドイツに敗れ、ともに4勝1敗、得失点差で辛くも首位を確保した。

ユーゴがやや精彩を欠いている感じだが、シーズンが深まればやはり強味をみせよう。

チェコがユーゴと引き分けた以外は連敗、最下位に甘んじた。

ソ連	22	12－10	10－10	20	チェコ
ルーマニア	30	14－7	16－8	15	ルーマニアB
東ドイツ	21	8－7	12－13	20	ユーゴ
ユーゴ	27	14－12	13－9	21	ルーマニアB
ソ連	22	13－7	9－11	18	東ドイツ
ルーマニア	17	9－8	8－6	14	チェコ
東ドイツ	27	14－13	13－3	16	ルーマニアB
チェコ	21	9－7	12－13	20	ユーゴ
ルーマニア	21	9－9	12－10	19	ソ連
東ドイツ	26	13－11	13－11	22	チェコ
ソ連	21	8－10	13－8	18	ルーマニアB
ルーマニア	26	12－12	14－11	23	ユーゴ
ルーマニアB	22	12－7	10－12	19	チェコ
ユーゴ	25	11－8	14－16	24	ソ連
東ドイツ	18	8－8	10－9	17	ルーマニア

【順位】①ルーマニア4勝1敗（得失点差22）②東ドイツ4勝1敗（13）③ソ連④ユーゴ⑤ルーマニアB⑥チェコ

（個人得点）①マキシモフ（ソ連）35点②ケーラート（東ドイツ）33③クリボカピッチ（ユーゴ）28

アルジェリア活況　アフリカ地域もシーズン毎に活気づいているが、なかでもアルジェリアの意欲には注目される。

最近では東ドイツB、レニングラード（ソ連）選抜を招いて対戦、東ドイツBに9－13、レニングラード選抜に13－10と、進境のあとを示した。

ミュンヘンで予選　西ドイツ協会がこのほど明きらかにしたところによると、オリンピック予選（ヨーロッパゾーン）のうち、センセーショナルな話題をまいている西ドイツ×東ドイツのホームゲーム（第1戦）を、12月20日ミュンヘンオリンピックのハンドボール会場となった一万二千人収容の大体育館で行う。

西ドイツの消長をかけたこの一戦は、おそらく立すいの余地ない大観衆を集めることだろう。第2戦は来年3月、東ドイツ側で行う。

ユーゴリーグ　男子14、女子12チーム約7ケ月にわたって激戦を繰りひろげていたユーゴリーグ（選手権）はこのほど男女総計314試合の全日程を終了、男子はGKアルスラナジッチ、ポポビッチらのボラックバンヤ・ルカが17勝5分4敗で優勝した。女子はラドニッキ・ベルグラードが19勝2分1敗の好成績で優勝を遂げた。

欧州女子クラブ大会　西ドイツ・ウラクでこのほどヨーロッパ女子の強豪単独8チームによる国際大会が開かれ、ヴァサス・ブダペスト（ハンガリー）が、AZS・ワルシャワ（ポーランド）を8－6（前半3－4）で破り優勝を飾った。

西ドイツ11人制　11人制の伝統を守りつづける西ドイツ（男子）は、このほど第29回全国選手権の決勝戦を行い、TSG・ハスロッヒが、人気のTUS・ネッテルスタットを15－14で破り初優勝した。

敗れたネッテルスタットは、スーパースター、ルブキングをはじめ、ユーゴの赤い星・ラザレビッチ（昭48来日）を引き入れたチーム。7人制（室内）では、やっと2部に昇格したばかりだが、11人制では地域リーグで抜群の力をみせすばらしい人気を誇っている。ちなみに決勝戦の観客は約六千。

世界選抜再び編成　ヨーロッパの専門誌などによると、昨秋ユーゴ協会25周年記念のため編成された「IHFオールスターズ」（本誌127号参照）が、今秋11月ごろ、西ドイツ・ドルトムントのウェストファーレンホール設立25周年事業の一つとして、西ドイツナショナルと対戦する計画が進められている。

ブロック高校選手権

近畿

女子は大谷が6度目

第18回近畿高校選手権は7月22日から24日までの3日間、兵庫県日高町神鍋球技場に男子24、女子16校が参加して行われた。

男子は、添上（奈良）、武庫工（兵庫）のインターハイ代表校同士の決勝となり、添上が前半の優位を活かして快勝、6年ぶり2度目の栄冠を手にした。（6年前は枚方(大阪)との復数優勝）

女子は、全日本高校2連勝を目指す大谷(大阪)が、絶好の仕上りをみせて勝ち進み、決勝でも住吉学園（大阪）の反撃をかわし、2年連続6度目の優勝を遂げた。

▽男子1回戦

嵯峨野(京)12—5報徳学園(兵)
御坊商工(和)8—7東山(京)
都島工(大)12—5伏見工(京)
米原(滋)10—7西宮北(兵)
奈良(奈)12—4彦根東(滋)
明石南(兵)8—5豊中(大)
佐野工(大)11—10桐蔭(和)

県和歌山商12—7泉北(大)

▽同2回戦

嵯峨野 11（2—2、2—0：5—0、2—7）9 桃山学院（大阪）
畝傍（奈良）12（6—3、6—3）6 御坊商工
武庫工（兵庫）10（1—0、0—1：6—4、3—5）10 都島工

引き分け 抽せんで武庫工の勝ち。

米原 10（8—5、2—1）6 那賀（和歌山）
此花学院（大阪）6（3—4、3—1）5 奈良
洛北（京都）14（8—5、6—4）9 明石南
佐野工 9（1—0、0—0：4—3、4—5）8 八幡工（滋賀）
添上（奈良）15（10—5、5—4）9 県和歌山商

▽同準々決勝

嵯峨野 10（5—4、5—3）7 畝傍
武庫工 16（8—3、8—1）4 米原
此花学院 14（10—4、4—1）5 洛北
添上 16（9—6、7—2）8 佐野工

▽同準決勝

武庫工 9（3—4、6—4）8 嵯峨野
添上 10（5—3、5—6）9 此花学院

▽同決勝

添上 15（8—6、7—2）8 武庫工

▽女子1回戦

大谷(大)10—5鈴蘭台(兵)
四天王寺(大)7—6郡山(奈)
彦根西(滋)5—3精華女(京)
県神戸商(兵)7—3一条(奈)
夙川(兵)7—6門真(大)
住吉学園(大)12—3新宮(和)
西京商(京)11—5守山女(滋)
鶴見商(大)6(延)5粉河(和)

▽同準々決勝

大谷 6（5—1、1—1）2 四天王寺
彦根西 7（3—2、4—2）4 県神戸商
住吉学園 6（4—1、2—4）5 夙川
鶴見商 9（5—3、4—1）4 西京商

▽同準決勝

大谷 11（5—2、6—1）3 彦根西
住吉学園 5（3—2、2—2）4 鶴見商

▽同決勝

大谷 4（1—2、3—1）3 住吉学園

四国

宇和島南初優勝飾る

第24回四国高校選手権は7月20、21の両日、香川・高松一高グランドで行われ、男女とも愛媛同士で優勝を争った。

男子は、宇和島南(愛媛)が、各県のインターハイ代表をなぎ倒して初優勝。

女子は予想どおり新居浜商（愛媛）が圧倒的な強味をみせ、決勝でも松山商（愛媛）につけいるスキを与えず、2年連続8度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦（＝準々決勝）

宇和島南(愛)16—11坂出工(香)
土佐(高)14—9池田(徳)
松山東(愛)16—11城北(徳)
三本松(香)23—9追手前(高)

▽同準決勝

宇和島南 18（9—7、9—7）14 土佐
松山東 14（6—1、8—5）6 三本松

▽同決勝

宇和島南 15（8—4、7—4）8 松山東

▽女子1回戦（＝準々決勝）

松山商(愛)14—6高松一(香)
高知西(高)10—9辻(徳)
池田(徳)10—6高松南(香)
新居浜商(愛)22—4城山(高)

▽同準決勝

松山商 17（7—5、10—2）7 高知西
新居浜商 19（11—4、8—3）7 池田

▽同決勝

新居浜商 19（11—4、8—3）7 松山商

徳山ク、鮮やかな初優勝

各地の記録

第20回中国一般選手権（男子）は7月12、13の両日、鳥取・米子市民体育館に各県の予選勝者15チームを集めて行われた。

3連勝を狙っていた三菱レ大竹（広島）が、2回戦で徳山ク（山口）に逆転負けをきっする波乱があり山口勢がベストフォフのうち三つを占める健斗だった。

意気あがる徳山クは、準決勝で山口教員団を突き放したあと、決勝の日新製鋼（広島）戦でも不利の予想をくつがえし、後半巧みに勝ちこし点をあげ初優勝を飾った。日本実業団リーグ加盟の2強を破っての制覇は賞されよう。

山口代表の優勝は3年ぶり5度目。

同時に行われた第3回中国一般女子選手権は徳山ク（山口）×広島一女商クの対戦となり、互角の戦況から徳山が押し勝ち、広島一女商クの3連覇を阻んだ。

▽男子1回戦

日新製鋼（広島）28（18—8、10—7）15 岡山教員（岡山）

境ク（鳥取）13（8—8、5—2）10 武田薬品光（山口）

下関ク（山口）13（8—3、5—0）3 修道ク（広島）

岡山大（岡山）17（7—8、10—3）11 倉吉フェニックス（鳥取）

山口県教員団 27（13—6、14—12）18 広島教職員（広島）

児島柏会（岡山）28（13—11、15—3）14 米子高専（鳥取）

徳山ク（山口）26（16—4、10—2）6 境港市役所（鳥取）

▽同準々決勝

日新製鋼呉 29（13—3、16—5）8 境ク

下関ク 33（16—6、17—4）10 岡山大

山口県教員団 26（16—10、10—7）17 児島柏会

徳山ク 15（9—5、6—8）13 三菱レイヨン大竹

▽同準決勝

日新製鋼呉 19（6—11、13—4）15 下関ク

徳山ク 25（16—3、9—4）7 山口県教員団

▽同決勝

徳山ク 19（10—8、9—9）17 日新製鋼呉

▽女子決勝

徳山ク 11（8—5、3—3）8 広島一女商ク

三春台ク、稲門ク制す
女子は深谷女OG勝つ

第5回関東クラブ選手権は7月19、20日、浦和市民体育館を中心に男子8、女子6チームが参加して行われた。

男子は、早大の若手OBで編成された稲門ク（東京）の試合ぶりに注目が集ったが、各県の名門クラブもさすがに根強く、激戦がつづいた。

結局、決勝は三春台ク（神奈川）×稲門クとなり、三春台が前半に大量リード、そのまま逃げこんで4年連続4度目の優勝を飾った。

女子は地元・深谷女OG（埼玉）が麻生OG（茨城）を制して4年ぶり2度目の優勝。（注・第1回大会で「美谷ク」を名乗って優勝）

▽男子準々決勝（＝1回戦）

日川ク（山梨）24（10—11、14—7）18 麻生ク（茨城）

三春台ク（神奈川）20（13—8、7—6）14 佐原ク（千葉）

稲門ク（東京）14（7—6、7—3）9 AOK栃木（栃木）

富岡ク（群馬）22（15—4、7—9）13 浦和市高OB（埼玉）

▽同準決勝

三春台ク 24（14—5、11—3）8 日川ク

稲門ク 13（9—6、4—6）12 富岡ク

▽同決勝

三春台ク 21（9—10、12—4）14 稲門ク

▽女子1回戦（2試合）

深谷女OG（埼玉）不戦勝 ジューキOG（東京）

全神奈川ク 10（6—4、4—2）6 前橋ピジョンズ（群馬）

▽同準決勝

深夜女OG 14（5—4、9—2）6 水郷ク（千葉）

麻生OG（茨城）19（11—3、8—0）3 全神奈川ク

▽同決勝

深谷女OG 13（6—6、7—3）9 麻生OG

茨城で麻生ク健斗

▼茨城県クラブトーナメント（7月・麻生高）＝男子のみ

▽準々決勝

霞ケ浦ク 不戦勝 牛堀ク

OSCク 27—12 高専ク

麻生ク 20—13 土浦ク

新治ク 15—10 竜ケ崎ク

▽準決勝

OSCク 17—13 霞ケ浦ク

麻生ク 21—8 新治ク

▽決勝

麻生ク 28（15—6、13—10）16 OSCク

沖縄国際大、興南OG破る

▼第2回沖縄県一般トーナメント

▽男子準決勝

大知会 31—12 全通那覇

沖縄教員 30—18 北谷村役場

▽同決勝

大知会 19（12—7、7—9）16 沖縄教員

▽女子決勝

沖縄国際大 10（3—3、7—4）8 興南OG

海自下総、三井石化おさえる

▼千葉県実連夏季定期戦（8月・沼南町海自下総航空基地）

▽1部

海自下総 15—12 三井石油化学

陸自下志津 13（分）13 海自木更津

海自下総 23—5 丸善石油

三井石油化学 17—12 海自木更津

陸自下志津 13（分）13 丸善石油

海自下総 26—8 海自木更津

三井石油化学 11—10 丸善石油

海自下総 43—16 陸自下志津

海自木更津 11—9 丸善石油

三井石油化学 17—10 陸自下志津

【順位】①海自下総4戦全勝②三井石油化学3勝1敗③海自木更津④陸自下志津⑤丸善石油

【2部順位】①海自21航空群②陸自1空挺団・日産石油化学・陸自1ヘリ団⑤住友千葉化学

I・H大阪予選 全日本高校選手権大阪府予選、最終ラウンドは、第1、第2予選を勝ち抜いた男子、女子校によって行われた。男子は決勝リーグで、此花学院が泉北を30—8、佐野工を18—12、豊中を14—9で破り初代表。

女子は住吉学園が四天王寺を10—9で降したあと門真に8—7、鶴見商に9—5で勝ち代表となった。

記事ふくそうのため、当分のあいだ県レベルの中学大会の記録の掲載を休止させていただきます。ご了承下さい。（編集委）

三重国体県予選（報告分のみ）

◇青森

▽成年男子1回戦（2試合）
第2航空群32―6 紫球会
鯵ケ沢ク 23―14 合浦送球会

▽同準決勝
青森ク 25―15 第2航空群
七戸ユニオン27―12 鯵ケ沢ク

▽同決勝
青森ク 30―13 七戸ユニオン

▽少年男子セレクション準々決勝
弘前南高 17―13 青森高
鯵ケ沢高 19―7 青森東高
三本木高 17―16 七戸高
野辺地高 28―5 板柳高

▽同準決勝
鯵ケ沢高 16―4 弘前南高
野辺地高 11―10 三本木高

▽同決勝
鯵ケ沢高 11―10 野辺地高

▽同女子セレクション1回戦
三本木高 10―8 七戸高

▽同準決勝
青森西高 14―5 三本木高
野辺地高 16―1 柏木農高

▽同決勝
青森西高 8―2 野辺地高

◇石川

▽成年男子1回戦（2試合）
小松ク 13―12 小松製作所
県工ク 16―13 七尾ク

▽同準決勝
あすなろク21―9 県工ク
金沢市役所25―12 小松ク

▽同決勝
金沢市役所29―10 あすなろク

▽少年男子準々決勝
星稜高 15―12 小松工高B
県工高 13―9 松任高
小松高 23―10 小松商
小松工高 19―2 泉丘高

▽同準決勝
県工高 16―15 星稜高
小松工高 21―14 小松高

▽同決勝
小松工高 11―9 県工高

▽同女子決勝リーグ
小松市女高33―0 短大高
北陸大谷高14―10 短大高
小松市女高27―1 北陸大谷高

◇茨城

▽少年男子1回戦（1試合）
水戸選抜 21―12 県北選抜

▽同準決勝
県南選抜 20―12 県西選抜
県東選抜 17―4 水戸選抜

▽同決勝
県東選抜 12―8 県南選抜

▽少年女子1回戦（1試合）
県東選抜 27―4 県北選抜

▽同準決勝
県西選抜 10―7 水戸選抜
県東選抜 24―8 県南選抜

▽同決勝
県東選抜 14―6 県西選抜

◇愛知

▽少年男子第1次予選準々決勝
名南工高 15―12 東海高
旭丘高 13―10 明和高
岡崎城西高13―11 市工芸高
一宮工高 13―9 熱田高

▽同準決勝
名南工高 17―9 旭丘高
一宮工高 14―10 岡崎城西高

▽同決勝
名南工高 14―12 一宮工高

▽同女子第1次予選準々決勝
岩津高 7―4 国府高
岡崎高 8―7 半田高
名古屋商高10―4 東海商高
蒲郡高 14―4 蒲郡東高

▽同準決勝
岩津高 10―3 岡崎高
蒲郡高 10―8 名古屋商高

▽同決勝
岩津高 7―6 蒲郡高

◇山口

▽成年男子最終選考会準々決勝
下関ク 37―17 興亜石油
武田薬品光21―19 田原外郎ク
三井石油 23―18 宇部ク
徳山ク 36―11 岩国ク

▽同準決勝
下関ク 20―14 武田薬品光
徳山ク 20―14 三井石油

▽同決勝
徳山ク 16―14 下関ク

▽同女子最終選考会1回戦
防府商OG10―6 山口中央OG

▽同決勝
徳山ク 23―4 防府商OG

▽少年男子最終選考会準々決勝
岩国工高 25―4 宇部工高
下松工高 24―13 徳山工高
岩国高 23―12 徳山高
下関中央工高33―5 宇部高専

▽同準決勝
岩国工高 17―9 下松工高
下関中央工高13―11 岩国高

▽同決勝
岩国工高 11―10 下関中央工高

▽同女子最終選考会準々決勝
徳山高 18―1 宇部女子
高水高 8―7 田部高
岩国商高 9―8 山口中央高
岩国高 15―3 徳山商高

▽同準決勝
徳山高 5―4 高水高
岩国高 12―7 岩国商高

▽同決勝
徳山高 11―8 岩国高

◇奈良

▽少年男子準々決勝
生駒ジュニア33―2 桜井商高
添上高 22―2 奈良工高
奈良高 15―5 郡山高
十津川高 11―6 生駒高

▽同準決勝
奈良高 12―9 添上高
生駒ジュニア16―8 十津川高

▽同決勝
奈良高 14―11 生駒ジュニア

▽同女子1回戦
添上高 15―3 桜井商高
郡山高 11―8 一条高

▽同準決勝
添上高 13―5 生駒高
郡山高 19―2 帝塚山高

▽同決勝
添上高 7―6 郡山高

編集後記

□……今月号から誌面の変ぼうを試みるつもりでしたが、サマーシーズン恒例のビッグイベントが次々と報告され、結局、例月と同じ体裁で、お届けすることになりました。

しかし、〝刷新〟の意志を捨てたわけではなく、機をみて踏み切りたいと思っています。

□……最近の本誌がいささかマンネリ化しているのは、大会（試合）報道の占める割合が多いせいかもしれません。

国内で行われているハンドボール活動を網らしよう、というのが本誌の主旨であり、〝大会〟偏向も、紙数に制限がある（財政的に……）現状では、さけられないのです。

□……理想としては、ニュース・大会記録・技術ものの三本柱を確立することであり、今後もそれを目指すつもりですが、そのためには、いろいろな裏付けが必要です。

特に、15年間本誌につきあってみて、〝書き屋〟が斯界に少いことを痛感しています。

ああしろ、こうしろばかりの口先屋的寄稿家ではなく、ああなってる、こうなってるという情報屋的寄稿家は、さらに少いのです。重ねて、編集委員としての同好の士を募ります。

（S）

日本ハンドボール協会編　第一三四号　昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可　昭和五〇年八月二十五日印刷　昭和五〇年九月一日発行
『ハンドボール』
発行所　日本ハンドボール協会
東京都　区神南一ー一ー一　電話大代表(481)三二一一　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価二百五十円（年間購読料二千五百円）